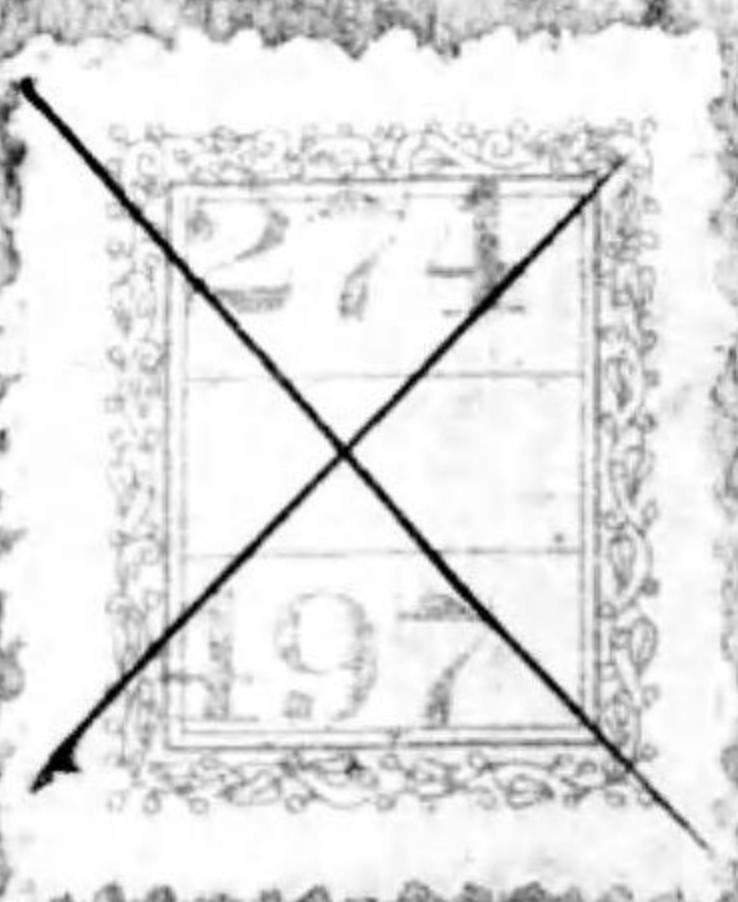




傳染病三關及法令類纂

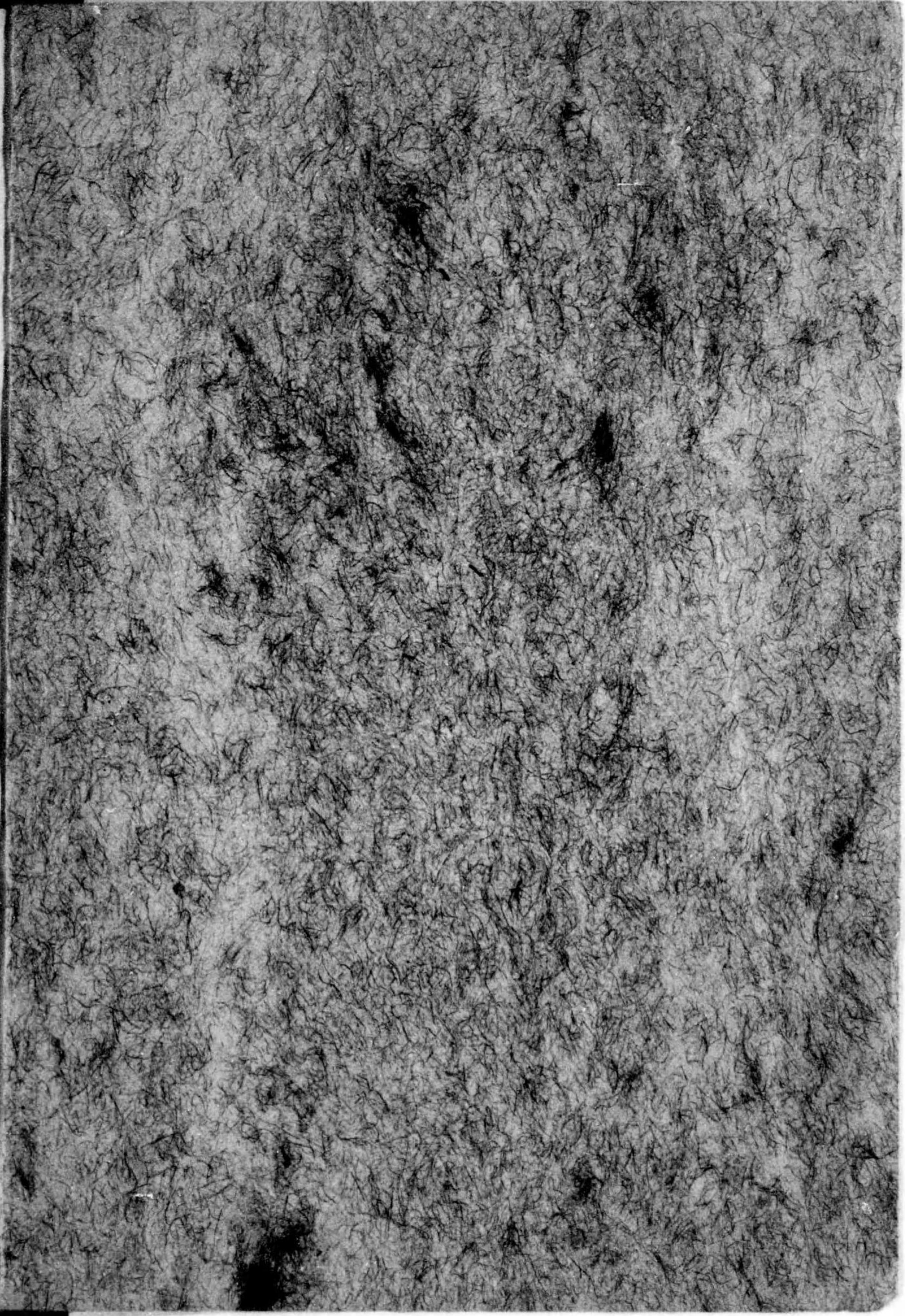


始



傳染病之關及  
法令類纂

（Faint text and a circular stamp are visible on this page, but they are illegible due to fading and low contrast.)



特100  
224

傳染病ニ關スル法令類纂

附錄	第九章	第八章	第七章	第六章	第五章	第四章	第三章	第二章	第一章
細菌	赤痢、腸室扶斯、虎列刺傳染徑路	種	下	流行性腦脊髓膜炎	癩	肺	傳染病豫防費補助	衛生組	檢定傳染病

大正  
2. 11. 22  
內交

第一章	總則	一
第二章	傳染病豫防法	二
第三章	「ハラチフス」ヲ傳染病ト指定ノ件	三
第四章	傳染病豫防法施行規則	四
第五章	傳染病豫防法施行細則	五
第六章	傳染病豫防法第十九條ノ二ニ依ル手當金ニ關スル件	六
第七章	清潔方法消毒方法	七
第八章	傳染病院隔離病舎管理規程	八
第九章	傳染病院隔離病舎設置規定	九
第十章	傳染病隔離病舎閉鎖中利用方	十
第十一章	病舎設計圖面配付	十一
第十二章	病院病舎ニ關スル書類轉送並ニ検査方	十二
第十三章	注射並外科的施術ヲ行フ場合取扱方	十三

傳染病豫防法ニ關スル命令豫案

●第一章	總則	一
●第二章	傳染病豫防法	二
●第三章	「ハラチフス」ヲ傳染病ト指定ノ件	三
●第四章	傳染病豫防法施行規則	四
●第五章	傳染病豫防法施行細則	五
●第六章	傳染病豫防法第十九條ノ二ニ依ル手當金ニ關スル件	六
●第七章	清潔方法消毒方法	七
●第八章	傳染病院隔離病舎管理規程	八
●第九章	傳染病院隔離病舎設置規定	九
●第十章	傳染病隔離病舎閉鎖中利用方	十
●第十一章	病舎設計圖面配付	十一
●第十二章	病院病舎ニ關スル書類轉送並ニ検査方	十二
●第十三章	注射並外科的施術ヲ行フ場合取扱方	十三

傳染病患者發病地他市町村ニ係ルトキ通知方	六七
井戸消毒計算表	六八
消毒藥品溶解及製法	六八
一 傳染病患者鐵道乘車規程	七一
傳染病豫防消毒取扱手續	七三
煮沸水使用方法	七七
煮沸水使用實行方	八一
腸室扶斯診斷液使用規程	八一
腸室扶斯診斷液使用方	八二
腸室扶斯菌攜帶陸軍下士卒現役免除取扱方	八四
豫防液請求承認方	八四
赤痢病豫防液注射獎勵及成績報告方	八六
腸室扶斯豫防液注射成績報告方	八七
實布埜里亞血清請賣勸誘方	八八

消化器系傳染病豫防方法	八九
傳染病豫防委員設置規程	九一
傳染病豫防委員心得	九三
傳染病豫防委員設置上申方(二件)	〇二
傳染病豫防上醫師雇入方	〇三
傳染病患者名簿調製方	〇四
傳染病患者土葬許可証下付方	〇四
學生傳染病ニ罹リシトキ通報方	〇五
傳染病終熄時ニ於ケル注意方	〇六
傳染病患者收容方(二件)	〇六
交通遮斷中充員召集ニ關スル件	〇八
交通遮斷施行方針變更ニ關スル件	〇九
一 傳染病豫防法中隔離ニ關スル件	一〇
ペスト豫防上斃鼠届出ノ件	一三

ベスト豫防上鐵道貨物取扱方	一四
ベスト豫防上古着等輸入取締方	一七
ベスト豫防心得	一七
除鼠の消毒方法清潔方法施行手續	一三三
ベスト函取扱取締規則	一三九
飼猫獎勵方	一四五
疑似症ニ對スル傳染病豫防法適用	一四六
虎列刺類似患者取扱方	一四七
虎列刺類似患者取扱上注意方	一四八
旅行中外國公使又ハ家族等傳染病ニ罹シ時取扱方	一四八
清潔法施行方法	一五一
清潔法施行手續	一五四
浸水家屋清潔方法	一五五
清潔方法施行督勵方	一五六

溝渠用惡水路浚渫取締方	一五七
●第一章 檢疫	一五九
檢疫委員職務章程	一五九
一 檢疫委員設置規則	一六一
一 臨事檢疫官設置	一六二
一 汽車檢疫規則	一六四
一 瀛車檢疫心得	一六七
一 汽車檢疫ニ關シ乘客手荷物無償ニ關スル件	一六九
一 列車中ノ吐瀉物措置方	一七一
汽車檢疫掛員徽章	一七一
檢疫委員視察心得	一七二
檢疫委員視察心得準用ノ件	一七五
●第二章 衛生組合	一七五
衛生組合規程	一七七

衛生組合組織標準ニ關スル件……………一八三

衛生組合同規約標準……………一八三

衛生組合同規約設定上參考事項……………一八八

衛生組合同規約標準追加……………一九三

●第四章 傳染病豫防費補助

一 傳染病豫防法第二十四條ノ補助ニ關スル件……………一九五

市町村傳染病豫防費補助規程……………一九六

市町村傳染病豫防費補助規程施行手續……………一九八

市町村傳染病豫防費補助稟請手續……………二〇〇

給料手當等支出節約方……………二〇七

患者服藥食費等取扱方……………二〇七

病院病舎番人給與補助……………二〇九

病院病舎付屬火葬場建設費補助……………二一〇

●第五章 肺結核

一 肺結核豫防規定……………二二一

肺結核豫防規定ニ依ル指定……………二二五

肺結核豫防規定施行方……………二二六

肺結核豫防ニ關スル告諭……………二二七

工場ニ於ケル肺結核豫防上注意……………二二〇

●第六章 癩

一 癩豫防法……………二二三

一 癩患者救護費用負担ニ關スル件……………二二七

一 癩豫防費國庫補助……………二二九

一 癩患者療養所設置區域……………二三〇

一 癩豫防法施行規則……………二三二

癩豫防消毒方法告諭……………二三六

癩患者視察方……………二三九

出獄スヘキ癩患者取扱方……………二四〇

癩豫防法施行細則	二四〇
癩豫防法施行細則取扱手續	二四三
●第七章 流行性腦脊髄膜炎	二四六
流行性腦脊髄膜炎届出規定	二四九
全患者取扱方	二四九
全豫防心得	二五〇
●第八章 トラホーム	二六一
トラホーム豫防心得告諭	二六一
トラホーム検診方	二六三
トラホーム豫防規程	二六三
トラホーム豫防規程取扱心得	二六六
トラホーム検診費補助セサル件	二七〇
●第九章 種痘	二七一
種痘法	二七一

一種痘法施行規則	二七七
一種痘施術心得	二九二
一種痘法第八條ニ依ル符號記入方ノ件	二九五
種痘法施行手續	二九六
種痘整理順序	三〇二
種痘法令議質	三二三



第一章 法定傳染病

# 第壹章 法定傳染病

## ● 傳染病豫防法

● 法律第三十六號

明治三十年三月三十日

### 傳染病豫防法

第一條 此ノ法律ニ於テ傳染病ト稱スルハ虎列刺、赤痢、腸室扶斯、痘瘡、發疹室扶斯、猩紅熱、實布埤利亞（格魯布ヲ含ム）及「  
ペスト」ヲ謂フ

前項ニ掲クル八病ノ外此ノ法律ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要トスル傳染病アルトキハ主務大臣之ヲ指定ス

第二條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ其ノ傳染病ノ疑似症ニ對シ此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ適用スルコトヲ得

第三條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタル時

キキハ其家人ニ消毒方法ヲ指示シ且直ニ患者若ハ死體所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戸長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ届出ヘシ其ノ轉歸ノ場合亦同シ

第四條 傳染病又ハ其ノ疑アル患者若ハ其ノ死者アリタル家ニ於テハ速ニ醫師ノ診斷若ハ檢案ヲ受ケ又ハ直ニ其ノ所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戸長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ届出ヘシ

前項ノ届出ヲ爲スヘキ義務者ハ一般民家ニ在リテハ戸主若ハ之ニ代ルヘキ者、社寺、公私立ノ學校、病院、製造所又ハ船舶、會社、各種事務所、貸席、興行場其ノ他集會ノ場所ニ在リテハ其ノ首長、管理人又ハ代理者トス

第五條 傳染病患者アリタル家其ノ他傳染病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル家ニ於テハ醫師又ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ清潔方法及消毒方法ヲ行フヘシ

第六條 清潔方法及消毒方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ傳染病患者ヲ傳染病院又ハ隔離病舎ニ入ラシムヘシ

第八條 當該吏員ニ於テ必要ト認ムルトキハ一定ノ日時間傳染病患者アリタル家其ノ他傳染病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル家ノ交通ヲ遮斷シ又ハ病毒感染ノ疑アル者ヲ隔離所其ノ他適當ノ場所ニ隔離スルコトヲ得

第九條 傳染病患者及其ノ死體ハ當該吏員ノ認可ヲ經ルニ非サレハ他ニ移スコトヲ得ス

第十條 傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ハ當該吏員ノ認可ヲ受クルニ非サレハ使用、授與、移轉、遺棄又ハ洗滌スルコトヲ得ス

第十一條 傳染病患者ノ死體ハ當該吏員ニ於テ充分ト認ムル消毒方法ヲ施シタル後ニ非サレハ埋葬スヘカテス

傳染病患者ノ死體ハ醫師ノ檢案ニ依リ當該吏員ノ認可ヲ經テ二十四時間内ニ埋葬スルコトヲ得

第十二條 傳染病患者ノ死體ハ火葬スヘシ但シ所轄警察官署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス

傳染病患者ノ死體ヲ土葬シタルトキハ三箇年ヲ經過スルニ非サレハ他ニ改葬スルコトヲ得ス但シ公共ノ工事ノ爲必要アル場合ニ於テ所轄警察官署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 死體ヲ既ニ埋葬シ若ハ埋葬セムトスル場合ニ於テ傳染病患者タリシ疑アルトキハ當該吏員ハ死體及家屋其ノ他ニ對シ更ニ相當ノ處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第十四條 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ其ノ事由ヲ戶主、首長、管理人又ハ代理者ニ告知シ家宅、船舶、其ノ他ノ場所ニ立入ル事ヲ得但シ當該吏員タルノ證票ヲ示スヘシ

第十五條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市制第六十一條町村制第六十五條ニ依リ傳染病豫防委員ヲ置キ檢疫豫防ノ事ニ從ハシムヘシ但シ市町村會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ス

豫防委員ニハ醫師ヲ加フヘシ其ノ醫師ヨリ出ツル者ハ市町村長之ヲ選任ス

第十六條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市町村内ノ清潔方法及消毒方法ヲ施行シ醫師其ノ他豫防上必要ナル人員ヲ雇入レ及器具、藥品其他ノ物件ヲ設備スヘシ

第十六條ノ二 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ鼠族ノ驅除及之ニ關スル施設ヲ爲スヘシ

第十七條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ傳染病院隔離病舎隔離所又ハ消毒所ヲ設置スヘシ

傳染病院、隔離病舎、隔離所又ハ消毒所ノ設備及管理ノ方法ハ

地方長官之ヲ定ム

第十七條ノ二 第十九條第七又ハ第八ニ依リ市街村落ノ全部又ハ一部ニ對シ家用水ノ使用ヲ停止シタル場合ニ於テハ市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ其ノ停止期間家用水ノ供給ヲ爲スヘシ

第十八條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ檢疫委員ヲ置キ檢疫豫防ニ關スル事務ヲ担任セシメ及特ニ船舶汽車ノ檢疫ヲ行ハシムルコトヲ得

船舶汽車ノ檢疫ヲ行フ場合ニ於テハ其ノ船舶若ハ其ノ船舶汽車ノ乘客乗組人ニシテ病毒感染ノ疑アル者ヲ必要ノ日時間停留シ及無償ニテ當該吏員又ハ醫師ヲ船舶汽車中ニ乗込マシムルコトヲ得

船舶汽車ノ檢疫ニ於テ發見シタル患者ハ附近市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舎ニ收容治療セシメ及病毒感染ノ疑アル者ヲ

附近市町村立ノ隔離所ニ入ラシムルコトヲ得

市町村ハ相當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ之カ爲特ニ要シタル費用ハ地方長官ニ請求スルコトヲ得

船舶汽車ノ檢疫ヲ施行セサル場合ニ於テ船舶汽車中ニ傳染病患者若クハ病毒感染ノ疑アル者アリタルトキハ前二項ノ規定ヲ準用ス在監人出獄スルニ際シ傳染病ニ罹リタル者若ハ病毒感染ノ疑アル者アリタルトキ亦同シ

前各項ノ外檢疫委員ノ設備及船舶汽車ノ檢疫ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 地方長官ハ傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ左ノ事項ノ全部又ハ一部ヲ施行スルコトヲ得

- 一 健康診斷又ハ死體檢案ヲ行フコト
- 二 市街村落ノ全部若ハ一部ノ交通ヲ遮斷シ又ハ人民ヲ隔離スルコト

- 三 祭禮、供養、興行、集會等ノ爲人民ノ群集スルコトヲ制限シ若ハ禁止スルコト
- 四 古着、襪、古綿其ノ他病毒傳播ノ虞アル物件ノ出入ヲ制限シ若ハ停止シ又ハ其ノ物件ヲ廢棄スルコト
- 五 傳染病毒傳播ノ媒介トナルヘキ飯食物ノ販賣、授受ヲ禁止シ又ハ之ヲ廢棄スルコト
- 六 瀛車、船舶、製造所若クハ多人數ノ集合スル場合ニ醫師ノ雇入其ノ他豫防上必要ノ設備ヲ爲サシムルコト
- 七 清潔方法、消毒方法ノ施行ヲ命シ及井戸、上水、下水、溝渠、芥漕、厠圍ノ新設改築變更若ハ廢止ヲ命シ又ハ其ノ使用ヲ停止スルコト
- 八 一定ノ場所ノ漁撈、游泳又ハ其水ノ使用ヲ必要ナル日時間制限シ若ハ停止スルコト
- 九 鼠族ノ驅除及之ニ關スル施設ヲ爲サシムルコト

第十九條ノ二 傳染病毒ニ汚染シタル建物ニシテ消毒方法ノ施行ヲ不適當ト認ムルトキハ地方長官ハ關係市町村會ノ意見ヲ聽キ内務大臣ノ認可ヲ得テ其ノ建物ニ對シ別段ノ處分ヲ行ヒ且其ノ處分ノ爲必要ナル土地ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ損害ヲ受ケタル建物ノ所有者ニ手當金ヲ交付スヘシ

手當金ノ交付並手當金額ノ決定ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 諸官廳、集治監及官立ノ學校、病院、製造所等ニ傳染病發生シ若ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ首長ハ地方長官ト協議シ此ノ法律ニ準シ豫防方法ヲ施行スヘシ

陸海軍所屬ノ部隊、軍艦等ニ傳染病發生シ若ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ首長ハ此ノ法律ニ準シ各其ノ所定ノ規則ニ依リ又必要アル場合ニ於テハ地方長官ト協議シ豫防方法ヲ施行スヘシ

シ

第二十一條 左ノ諸費ハ市町村ノ負擔トス

一 豫防委員ニ關スル諸費

二 市町村ニ於テ施行スル清潔方法、消毒方法及種痘ニ關スル諸費

三 豫防救治ノ爲雇入レタル醫師其ノ他ノ人員並豫防上必要ナル器具、藥品其ノ他ノ物件ニ關スル諸費

四 傳染病院、隔離病舎、隔離所及消毒所ニ關スル諸費

五 豫防救治ニ從事シタル者ニ給スヘキ手當、療治料及其ノ遺族ニ給スヘキ救助料、吊祭料

六 第八條ニ依レル交通遮斷隔離ニ關スル諸費及交通遮斷隔離ノ爲又ハ一時營業ヲ失ヒ自活シ能ハサル者ノ生活費

七 市町村内ニ於テ發見セル傳染病貧民患者並死者ニ關スル諸費

八 市町村ニ於テ施行スル鼠族ノ驅除及其ノ施設ニ關スル諸費

九 第十七條ノ二ニ依レル家用用水ノ供給ニ關スル諸費

十 第十九條ノ二ニ依リ交付スヘキ手當金

其ノ他市町村ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費

第二十二條 左ノ諸費ハ府縣稅又ハ地方稅ノ負擔トス

一 第十八條ニ關スル諸費

二 手當金ヲ除ク外第十九條ノ二ニ關スル諸費

三 第十九條第二ニ依レル交通遮斷、隔離ニ關スル諸費、交通遮斷、隔離ノ爲自活シ能ハサル者ノ生活費及隔離所ニ關スル諸費

其ノ他府縣ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費

第二十三條 地方長官ハ衛生組合ヲ設ケ清潔方法消毒方法其ノ他傳染病ノ豫防救治ニ關シ規約ヲ定メシメ之ヲ履行セシムル

コトヲ得

市町村ハ其ノ市町村内ノ衛生組合ニ於テ傳染病豫防救治ノ爲  
支出スル費用ノ全部又ハ一部ヲ補助スルコトヲ得

第二十四條 第二十一條第二十三條第二項ノ支出ニ對シテハ命

令ノ規定ニ從ヒ府縣稅又ハ地方稅ヨリ市町村ニ補助スヘシ

第二十五條 國庫ハ第二十二條第二十四條ノ府縣稅又ハ地方稅

ノ支出ニ對シ其ノ六分一ヲ補助スルモノトス

第二十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ

清潔方法、消毒方法ヲ施行スヘキ義務者之ヲ施行セス又ハ之

ヲ施行スルモ當該吏員ニ於テ充分ナラスト認ムルトキ及必要

ノ時限内ニ施行シ得スト認ムルトキハ當該吏員之ヲ施行シ其

ノ費用ハ市町村ヲシテ支辨セシムヘシ此ノ場合ニ於テ市町村

ハ其ノ費用ヲ義務者ヨリ追徵スルコトヲ得

私人ニ於テ前項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セザルトキハ國

稅徵收ニ關スル規程ニ依リ徵收ス

第二十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ

市町村又ハ私人ニ於テ施爲スヘキ事項ヲ施爲セス若ハ之ヲ施

爲スルモ充分ナラスト認ムルトキ又ハ必要ノ時限内ニ施爲シ

得スト認ムルトキハ地方長官ハ府縣稅又ハ地方稅ヲ以テ之ヲ

施爲シ其ノ費用ヲ市町村又ハ私人ヨリ追徵スルコトヲ得

私人ニ於テ前項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セザルトキハ國

稅徵收ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收ス

第二十八條 第二十六條及第二十七條ノ費用追徵ニ關シ不服ア

ル私人ハ訴願法ニ依リ訴願スルコトヲ得

第二十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ

當該吏員ノ指示命令シタル事項ヲ指定ノ期限内ニ履行セザル

者ハ五圓以下ノ罰金又ハ料ニ處ス

第三十條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタル



後十二時間以内ニ届出ヲ爲サス又ハ虚偽ノ轉歸届ヲ爲シタル  
片ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 第四條、第五條、第九條、第十條、第十一條第一項、  
第十二條ニ違背シタル者、交通遮斷ヲ犯シタル者、當該吏員ノ  
尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若クハ虚偽ノ陳述ヲナシタル者又ハ  
醫師ニ請託シテ第三條ノ届出ヲ爲サシメス若ハ其ノ届出ヲ妨  
ケタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

第三十二條 此ノ法律中ノ規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ  
除ク外北海道沖繩縣ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定  
ム  
此ノ法律中市町村ニ關スル規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノ  
ヲ除ク外市制町村制ヲ施行セサル地ニ關シ必要ナル事項ハ命  
令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 海外諸港及臺灣ヨリ來ル船舶ニ對シ施行スル檢疫  
ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十四條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以  
テ之ヲ定ム

第三十五條 此ノ法律ハ明治三十年五月一日ヨリ施行ス但シ第  
二十四條及第二十五條ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス  
第三十六條 明治十三年布告第三十四條傳染病豫防規則ハ此ノ  
法律施行ノ日ヨリ廢止ス  
本法ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

バラチフスヲ傳染病ト指定ノ件

●内務省令第九號 明治四十四年  
七月二十一日

明治三十年法律第三十六號傳染病豫防法第一條第二項ニ依リ  
「バラチフス」ヲ同法ニ依リ豫防法ノ施行ヲ必要トスル傳染病ト

指定ス

### 傳染病豫防法施行規則

●内務省令第十一號 明治卅年五月一日

第一條 警視總監府縣知事ハ其ノ管内ニ傳染病流行ノ兆アリト認ムルトキ及傳染病豫防法第一條ニ掲クル八病ノ外同法ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要ト認ムル傳染病發生シタルトキハ其ノ性状ヲ記シテ速ニ内務大臣ニ申報スヘシ

但前段ノ場合ニ於テハ鄰接若クハ船舶汽車交通ノ地ノ警視廳府縣廳最寄兵營及最寄港灣ニ碇泊ノ軍艦等ニ通報スヘシ

第二條 市町村長區長(沖繩縣ノ區長以下之ニ倣フ)戶長(戶長ニ準スヘキ者ヲ含ム以下之ニ倣フ)又ハ豫防委員ニ於テ傳染病豫防法第三條ノ届出ヲ受ケタルトキハ互ニ通報シ且警察官吏ニ通報スヘシ但町村長又ハ戶長ニ於テ届出又ハ通報ヲ受ケタルトキハ郡役所島廳ニ報告スヘシ

市町村長區長戶長又ハ豫防委員ニ於テ傳染病豫防法第四條ノ届出又ハ通報ヲ受ケタルトキハ直ニ醫師ヲシテ診斷セシメ傳染病ナルトキハ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 警察官吏又ハ檢疫委員傳染病豫防法第三條又ハ第四條ノ届出ヲ受ケ又ハ傳染病患者死者其ノ他傳染病ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アルヲ知リタルキハ市町村長區長戶長又ハ豫防委員ニ通報スヘシ但シ警察署長又ハ分署長ヨリ府縣廳(東京府及府廳)ニ報告スヘシ

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ醫師ヲシテ診斷セシムルコトヲ得

第四條 市町村長區長戶長又ハ豫防委員ハ傳染病患者死者其ノ他病汚染ノ事實アルコトヲ知リタルトキハ速ニ傳染病患者死者アリタル家其ノ他病汚染ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル家ニ清潔方法消毒方法ヲ施行セシメ「ベスト」病ナルトキハ特ニ鼠

族ノ驅除ヲ施行セシムヘシ但警察官吏衛生官吏郡吏員島廳吏員又ハ檢疫委員ハ市町村長區長戸長又ハ豫防委員ヲ指示シテ其事務ニ従事スヘシ

第五條 市町村長區長戸長又ハ豫防委員ハ豫防上必要ト認ムルトキハ傳染病患者ヲ傳染病院隔離病舎又ハ相當ノ設備アル病院ニ入ラシメ健康者ヲ隔離所ニ入ラシムヘシ但警察官吏衛生官吏郡吏員島廳吏員檢疫委員ハ市町村長區長戸長又ハ豫防委員ヲ指示シテ其ノ事務ニ従事スヘシ

第六條 警察官吏又ハ檢疫委員ハ傳染病豫防法第八條ニ依リ虎列刺、赤痢、發疹室扶斯、「ペスト」ニ對シ左ノ事項ヲ施行スルコトヲ得

一 患者又ハ死體アル間及患者ヲ入院若クハ入舎セシメ又ハ患者治療若クハ死亡シタル後消毒方法ノ施行ヲ了ルマテ其ノ家ノ交通ヲ遮斷スルコト

二 前號ノ外病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル家ハ消毒方法ノ施行ヲ了ルマテ交通ヲ遮斷スルコト

三 前二號ノ家ノ居住者其ノ他病毒感染ノ疑アル者ヲ消毒方法ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ左ノ日時間隔離所若クハ消毒方法ノ施行ヲ了リタル家其ノ他適當ノ場所ニ隔離スルコト

虎列刺、赤痢 滿五日間  
發疹室扶斯 滿七日間

「ペスト」 滿十日間

四 交通遮斷又ハ隔離中新ニ患者ヲ發シタルトキハ更ニ本條ニ依リテ處置スルコト

傳染病豫防法第十九條第二ニ依ル交通遮斷及隔離ノ施行ハ警察官吏又ハ檢疫委員ニ於テ前項ニ準シ之ヲ行フヘシ但特ニ府縣知事(東京府ハ)ノ命アル場合ニ限ル

市町村長區長戸長又ハ豫防委員ハ警察官吏又ハ檢疫委員ノ指示ヲ受ケテ本條ノ交通遮斷及隔離ニ關スル事務ニ從事スヘシ

二〇

第七條

左ノ場合ニ於テハ書面又ハ口頭ヲ以テ警察官吏市町村長區長戸長檢疫委員又ハ豫防委員ノ認可ヲ受クヘシ但第一ノ場合ニ於テハ認可ヲ爲シタル吏員ヨリ患者又ハ死體ヲ移スヘキ地ノ吏員ニ通報スヘシ

一 傳染病豫防法第九條ニ依リ傳染病患者及其ノ死體ヲ他ニ移サントスルトキ

二 傳染病豫防法第十條ニ依リ傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ヲ使用授興移轉遺棄又ハ洗滌セントスルトキ

三 傳染病豫防法第十一條第二項ニ依リ傳染病患者ノ死體ヲ二十四時間内ニ埋葬セントスルトキ

第八條

傳染病豫防法第九條第十條及第十一條第一項ノ場合ニ

於テハ市町村長區長戸長又ハ豫防委員ハ充分消毒方法ヲ施行セシムヘシ但警察官吏衛生官吏郡吏員島廳吏員又ハ檢疫委員ハ市町村長區長戸長又ハ豫防委員ヲ指示シテ其事務ニ従事スヘシ

第九條 傳染病豫防法第十四條ニ依リ家宅船舶其ノ他ノ場所ニ立入ルハ可成日出後日出前ニ於テスヘシ其ノ戸主首長管理人等ニ示スヘキ證票左ノ如シ

凡三寸

木札又 表面

傳染病豫防吏員之證

裏面 官廳公署印

第十條 府縣知事(東京府ハ)ハ市町村ノ醫師ヲシテ傳染病豫防法第十九條第一ノ健康診斷及死體檢案又ハ鼠族其ノ他ノ検査ヲ行ハシムルコトヲ得

第十一條 府縣知事(東京府ハ)傳染病豫防法第十九條第七ニ依リ

三

清潔方法消毒方法等ノ施行ヲ命シタルトキハ第四條ノ規程ヲ  
準用ス

第十二條 市町村立ノ傳染病院隔離病舎又ハ隔離所ニ於テハ食  
費藥價ヲ徵収スルコトヲ得其ノ金額ハ市ニ在テハ府縣知事町  
村ニ在テハ郡長ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 市町村長區長戸長又ハ豫防委員ハ傳染病豫防法第二  
十六條ニ依リ清潔方法消毒方法ヲ施行スヘシ但警察官吏衛生  
官吏郡吏員島廳吏員又ハ檢疫委員ハ市町村長區長戸長又ハ豫  
防委員ヲ指示シテ其ノ事務ニ從事スヘシ  
前項ノ場合ニ於テ市町村ハ必要ナル人夫器具藥品等ヲ供給シ  
又ハ其費用ヲ支出スヘシ

第十四條 府縣知事ハ衛生組合ヲシテ消毒器具藥品等ヲ設備セ  
シムルコトヲ得

第十五條 傳染病豫防法第二條第十八條(第三項但書ノ場  
合ヲ除ク)及第十九

條ノ地方長官ノ職務其ノ他傳染病豫防法又ハ此ノ規則ノ施行  
ニ關シ警察ニ屬スル事項ハ東京府ニ於テハ警視總監之ヲ行フ  
東京市京都市大阪市ニ於テハ傳染病豫防法又ハ此ノ規則ノ施  
行ニ關シ市長ニ屬スル職務ハ區長ヲシテ之ヲ補助執行セシム  
ルコトヲ得

第十六條 傳染病豫防方法又ハ此ノ規則ノ規程ニシテ其ノ準用  
シ得ヘキモノヲ除クノ外沖繩縣ニ關シ必要ナル事項ハ沖繩縣  
知事之ヲ定ム

第十七條 傳染病豫防法又ハ此ノ規則ノ施行ニ關シ必要ナル細  
目ハ警視總監府縣知事之ヲ定ム

島地ニ關シ此ノ規則ノ規程ヲ適用シ難キ場合ニ於テハ警視總  
監府縣知事ハ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

### ●傳染病豫防法施行細則

●長野縣令第三十九號 明治三十年八月廿四日  
傳染病豫防法施行細則左之通相定ム

第一章 通則

第一條 醫師傳染病豫防法第三條ニ依リ届出ヲ爲ストキハ口頭ニ據リ別紙書式ニ據ルヘシ口頭届出ヲ受ケタルモノハ別紙書式ニ據リ届書ヲ作成シ届人ヲシテ署名セシムヘシ

第二條 傳染病豫防法第四條ノ義務者ハ口頭若ハ書面ヲ以テ其發病地名日時住所氏名年齢等届出ヘシ

第三條 警察官吏市町村長檢疫委員及豫防委員ハ傳染病豫防法施行規則第二條第一項及第三條ノ届出ヲ受ケ通報スルトキハ別紙書式ニ準スヘシ但警察官吏又ハ檢疫委員ハ警察官署長ニ報告スヘシ警察官署長ヨリ知事ニ報告スルトキ亦同シ  
傳染病豫防法施行規則第三條ニ依リ傳染病毒ニ汚染シ若クハ傳染ノ疑アルコトヲ通報スルトキハ其事實ヲ詳悉スヘシ

第四條 市町村長又ハ豫防委員ハ左ニ該當スル者ハ傳染病豫防

法第七條及全施行規則第五條ニ依リ傳染病院又ハ隔離病舎若クハ相當ノ設備アル病院ニ入ラシムヘシ但第一第五ニ該當スル者ニシテ健康者ヲ隔離所ニ入ラシムル時又ハ患者危篤ニシテ途中死亡ノ虞アルモノハ此限ニアラス

一 家族ノ居間ト隔離シ治療スヘキ室ナキモノ

二 専ラ看護ニ従事スヘキモ人ナキモノ

三 主治醫ナキモノ

四 患者ニ専用スヘキ家具什器ヲ有セルモノ

五 前各項ノ外宿屋貸座敷待合茶屋料理店飲食店其他多數ノ家族同居人アリテ豫防方法行ハレ難シト認ムルモノ

六 自宅治療ノ患者ニシテ豫防方法ヲ遵守セサルモノ

七 警察官吏衛生官吏郡吏員檢疫委員ヨリ指示アリタルトキ

第五條 傳染病患者ヲ自宅療養セシムルトキハ警察官吏市町村

長檢疫委員又ハ豫防委員ハ家人ニ指示シテ左ノ事項ヲ執行セシムヘシ

二六

- 一 病室ニハ看護人ノ外交通ヲ斷タシムルコト
- 二 病室内ニ於テハ患者ノ外飲食セシメサルコト
- 三 患者ニ供セシ飲食物ハ消毒方法ヲ行ヒ一定ノ場所ニ投棄セシムルコト
- 四 患者ノ器具ハ使用ノ都度消毒方法ヲ行フコト
- 五 患者ノ吐瀉物ハ滲透セサル器物ニ受ケ其都度消毒方法ヲ行フコト
- 六 患者ノ吐瀉物及病毒ニ汚染シタル物品ニハ蚊蠅ノ點集セサル様注意セシムルコト
- 七 病室内ノ塵芥ハ覆蓋アル器物ニ溜置キ一定ノ場所ニ於テ焼却セシムルコト
- 八 患者ノ沐浴シタル湯水及汚物ヲ洗滌シタル汚水ハ消毒方

法ヲ行ヒ一定ノ地ニ投棄セシムルコト

第六條 警察官吏檢疫委員傳染病ノ届出ヲ受ケ又ハ傳染病アルコトヲ知リタルトキハ直ニ清潔方法消毒方法ヲ施行セシメ傳染病豫防法施行規則第六條ニ依リ交通ヲ遮斷スルトキハ市町村長又ハ豫防委員ニ通報スヘシ

第七條 交通遮斷施行中ハ左ノ各項ニ依リ取扱フヘシ

- 一 遮斷區域中ノ物品ヲ區域外ニ搬出セントスルトキハ相當ノ消毒法ヲ施スコト
- 二 外出ヲ請フ者アルトキハ事情止ムヲ得サルモノニ限り醫師ヲシテ檢診セシメ異狀ナキモノハ消毒ノ上許可スルコト
- 三 遮斷中ノ者ヘ面會ヲ求ムル者アルトキハ事情止ムヲ得サルモノニ限り之ヲ許シ退去ノ際ハ消毒法ヲ行ハシムル事

第八條 警察官吏市町村長檢疫委員又ハ豫防委員ニ於テ傳染病

二七

豫防法施行規則第七條第一ノ事項ノ認可ヲ乞フモノアルトキ  
ハ其移轉地市町村内ニアルトキハ警察官吏檢疫委員市町村長  
之ヲ認可シ市町村外ニアルトキハ警察官吏檢疫委員之ヲ認可  
スヘシ

二八

第九條 警察官署長ニ於テ傳染病豫防法第十二條ノ事項ヲ許可  
セントスルトキハ左ノ各項ヲ履行セシメ巡查ヲ派遣シ監査セ  
シムヘシ

一 擴穴ノ深サハ七尺以上ト爲スコト

二 棺ノ周圍一尺以上石灰ヲ埋ムルコト

前項ノ場合ニ於テハ墓地他ノ所轄ナルトキハ其旨所轄警察官  
署長ニ通報スヘシ

第十條 傳染病豫防法第十三條ノ場合ニ於テハ左ノ規定ニ依ル  
ハシ

一 死体ヲ已ニ埋葬シタルトキハ市町村長又ハ豫防委員ハ傳

染病豫防法第五條ニ依リ清潔方法及消毒方法ヲ執行シ且  
棺ノ周圍一尺以上石灰ヲ埋ムヘシ

二 前項ノ場合ニ於テハ警察官吏又ハ檢疫委員ハ傳染病豫防  
法施行規則第六條ニ依リ交通ヲ遮斷スルヲ得

三 死体ヲ未タ埋葬セサルトキハ傳染病豫防法執行規則第二  
條第二項第三條ニ依リ醫師ヲシテ檢案セシメ傳染病ナル  
トキハ同法施行規則第四條ノ規定ヲ準用ス

### 第十一條 (削除)

第十二條 市町村ニ於テ傳染病院、隔離病舎及消毒所ヲ設置セ  
ントスルトキハ其位置構造仕様書圖面並ニ著手年月日及竣工  
期日ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ其改修増設セントスルトキ  
亦同シ

前項ノ工事竣成シタルハ直ニ所轄ノ警察官署ニ通報スヘシ  
第十三條 (削除)



第十四條 傳染病院、隔離病舎、隔離所ニハ日誌ヲ備ヘ必要事故ヲ記載スヘシ

第十五條 郡長警察官署長又ハ檢疫委員ハ豫防上必要ト認ムルトキハ醫師ヲシテ傳染病豫防法第十九條第一號ノ健康診斷又ハ死体檢案ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ警察官吏郡吏員市町村長檢疫委員又ハ豫防委員ハ其事務ニ從事スヘシ

第十六條 警察官吏市町村長檢疫委員又ハ豫防委員ハ傳染病豫防法施行規則第七條但書ノ通報ヲ受ケタル片互ニ通報シ警察官吏又ハ檢疫委員ハ警察官署長ニ報告スヘシ

第十七條 傳染病豫防法施行規則第九條ニ依リ調製スヘキ證票ハ巾一寸五分長サ三寸ノ厚紙ヲ用ユヘシ

第十八條 郡市長又ハ警察官署長ニ於テ傳染病流行ノ虞アリト認ムルトキ及傳染病ノ疑似症發生シ豫防方法ノ施行ヲ必要ト

認ムルトキハ其情況ヲ詳記シ直ニ知事ニ報告スヘシ  
傳染病豫防法第十九條第二號乃至第九號ノ全部又ハ一部ノ施行ヲ必要ト認ムルトキ亦同シ

### 第二章 器具及藥品

第十九條 市町村ニ於テハ左ノ器具及藥品ヲ設備スヘシ

#### 消毒器

- 一 消毒用器具
- 二 患者用器具
- 三 消毒藥調製用器具

#### 消毒藥

- 一 結晶石炭酸
- 二 生石灰又ハ格魯兒石灰
- 三 昇汞
- 四 鹽酸

- 五 「クレゾール」水
- 六 加里石鹼、又ハ綠石鹼
- 七 「フォルムアルデヒド」

第三章 病院病舎消毒所及隔離所

第二十條 市町村ニ於テ設備スヘキ傳染病院、隔離病舎ノ位置及建物ハ左ノ各項ニ據ルヘシ

- 位置
- 一 飲用水ニ汚染ノ虞ナキ場所
- 二 患者ヲ運搬スルニ便利ナル場所
- 三 用水ニ缺乏ノ虞ナキ場所
- 四 濕潤ナラサル場所
- 五 墓地火葬場等ニ近接セサル場所
- 建物
- 一 傳染病院、隔離病舎
- 一 重症患者室

- 二 輕症患者室
- 三 快復期患者室
- 四 消毒室
- 五 醫員其他事務員詰所看護人室炊場
- 六 浴室

第二十一條 消毒所ノ位置ハ前條ニ準シ其建物ハ左ノ各項ニ依ルヘシ但消毒所ハ適當ノ地ニ設置スルコトヲ得

- 一 消毒室
- 二 事務員詰所
- 三 浴室

第二十二條 傳染病院ハ患者三十名以上隔離病舎ハ患者十名以上ヲ收容スルニ足ルヘキ建設ヲ爲スヘシ

第二十三條 傳染病院ハ町村ノ狀況ニヨリ患者十五名以上ヲ容ル、ニ足ルヘキ同一建物中ニ重症患者室、輕症患者室、及快

復期患者室ヲ區劃シテ設クルコトヲ得但此ノ場合ニ於テハ事務員委員看護人室炊場等ハ人員七名以上ヲ容ル、ニ足ルヘキモノヲ設クヘシ

第二十四條 傳染病院隔離病舎及消毒所ノ構造ハ左ノ各項ニ據ルヘシ

- 一 病室ハ一人ニ付凡一坪半ノ割合トス
- 二 病室ハ床、側壁トモ板張「ペンキ」塗トスヘシ
- 三 屍室及浴室ハ漆喰敲キ又ハ板張トス
- 四 廁ハ盜衣ヲ有スル陶器ヲ伏セ漆喰敲キヲ以テ其上部周邊ヲ漏斗狀ト爲スコト
- 五 浴室庖厨洗濯所ノ排水ハ滲透セサル施設ヲ爲スコト
- 六 各病室ノ床下ハ二尺以上トシ床ハ汚水ノ漏泄セサル様施設スルコト

第二十五條 隔離所ヲ設置スルトキハ第二十條第二十四條ニ準

據スヘシ但寺院若ハ適當ノ家屋ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第四章 掛員

第二十六條 傳染病院又ハ隔離病舎ニハ左ノ割合ヲ以テ係員ヲ置クヘシ

- 一 醫師 患者二十名迄一人
- 二 看護人 同七名迄一人
- 三 事務員 患者五十名迄一人
- 四 消毒人夫 同十五名迄一人
- 五 炊事人夫 同十五名迄一人
- 六 雜役人夫 同上

土地ノ狀況ニ依リ特ニ増員ノ必要アルトキハ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第二十七條 市町村ニ於テ傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ醫師看護人消毒人夫運搬人夫ヲ雇入豫防上必要ナル設備ヲ

爲スベシ

第二十八條 傳染病豫防法第十七條ノ管理規程ハ別ニ之ヲ定ム

第二十九條 傳染病院隔離病舎又ハ消毒所ヲ設置スヘキ市町村

ハ別ニ之ヲ指定ス

第五章 附則

第三十條 第二十九條ニ依リ指定セラレタル市町村ニ於ケル從來設置ノ避病院、消毒所等ニシテ本則ニ牴觸スルモノハ明治三十五年三月三十一日ヲ期シ改造増築若ハ變更スヘシ但市町村ノ事情ニ依リ本條ニ從ヒ難キモノハ知事ノ認可ヲ受ケ延期スルコトヲ得

第三十一條 十四年十二月乙第百八十三號二十三年十月訓令第百五十一號二十七年六月訓令第百七號同訓令第百八號二十八年四月縣令第十四號同訓令第三十九號同縣令第十五號同訓令第四十六號同訓令第四十號同年五月訓令第五十六號同縣令第

十六號同訓令第五十九號同訓令第五十三號同年六月縣令第十七號同訓令第六十四號同訓令第六十五號二十九年九月縣令第四十四號同年十月訓令第九十二號二十七年六月縣令第二十一號及從來ノ令達ニシテ本令ニ牴觸スルモノハ總テ廢止ス

(書式) (半紙ニツ切)

傳染病患者 (轉歸) 届 (通報)

病 名 何々

職

縣 郡 市 町 村 大字

發病月日時 月 日 午前 午後

男 女

字 主 又 ハ 某 ノ 何々

傳染病ト診斷シタル月日時

月 日 午前 午後 時

別

何 某 何 何 歲

轉歸 月 日 日 治癒 (死亡)

備

死体檢案月日	月	日	午前
時			後
時			時
別	土葬(火葬)	ノ	
	月	日	土葬(火葬)
			考

右及御届(通報)候也

郡市町村大字番地

年月日時

年月日時受領

醫師	氏	名	印
官公職	氏	名	印

- 一 備考欄ニハ發病ノ誘因其他參考トナルヘキ事項ヲ記ス但痘瘡患者ナルトキハ未種痘若クハ初種再三種又ハ痘瘡濟等ノ事項ヲ記スヘシ
- 二 本則第三條ノ報告ヲ爲ストキハ醫師ノ届書ニ受領シタル年月日時及官公職氏名ヲ記シ送致スヘシ
- 三 土葬火葬ノ別及月日ハ醫師ニ於テ記載ヲ要セス
- 四 實布埜里亞患者ニシテ血清治療ヲ爲シタルトキハ轉歸届

ノ際備考欄ニ其旨朱書スベシ

●警發第二八八號

四十年八月二十七日

從來傳染病患者又ハ轉歸届ヲ第二次ニ受領セラレタル場合ニ於テ連署ノ手續ヲ行ハレ來リ候處右ハ徒ラニ手數ヲ要スルノミニシテ何等ノ必要モ無之候得ハ爾今唯經由ニ止メラレ候様致度此段及通牒候也

●手當金ニ關スル件

●内務省令第二十一號

明治三十八年六月二十九日

傳染病豫防法第十九條ノ二ニ依ル手當ニ關スル件左ノ通定ム

傳染病豫防法第十九條ノ二ニ依ル手當金ニ關スル件

第一條

地方長官(東京府ハ警視總監以下之ニ依フ)ハ傳染病豫防法第十九條ノ二ニ依リ傳染病毒ニ汚染シタル建物ニ對シ別段ノ處分ヲ行ヒ且其

ノ處分ノ爲メ必要ナル土地ヲ使用セントスルトキハ其ノ旨ヲ  
建物、土地ノ所有者又ハ管理者ニ通達スヘシ

第二條 前條ノ場合ニ於テ損害ヲ受ケタル建物ノ所有者ニ交付  
スヘキ手當金額ハ地方長官時價ヲ參酌シテ之ヲ決定ス

第三條 市町村長區長(北海道、沖繩縣ノ區長以下之ニ做フ)戸長(戸長ニ準スヘキ者ヲ含ム以下之ニ做フ)ハ  
地方長官ヨリ手當金額決定ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ建物

所在ノ市(北海道、沖繩縣、間切島)町村(沖繩縣、間切島)番地及手當金額ヲ所有者ノ外  
建物ニ關シテ權利ヲ有スル者ニ通達シ且相當ノ期間公告シ尙

必要アリト認ムルトキハ他ノ權利者ノ承諾書ヲ徴シタル上損  
害ヲ受ケタル建物ノ所有者ニ對シ手當金ヲ交付スヘシ

第四條 市町村長區長戸長ハ前條ノ期間内ニ他ノ權利者ノ申請  
アリタルトキハ期日ヲ指定シテ手當金ノ交付ヲ延期スルコト  
ヲ得

### ●清潔方法消毒方法

●内務省令第十三號明治三十年五月六日

傳染病豫防法第六條ニ依リ清潔方法消毒方法左之通定ム

#### 第一章 清潔方法

第一條 清潔方法ノ要領左ノ如シ

- 一 傳染病患者アリタル家ニ於テハ殊ニ患者ノ居室其ノ他病  
毒汚染ノ疑アル場所ニ注意シ消毒方法ノ施行ヲ了リタル  
后掃除ヲ行ヒ其ノ塵芥ハ之ヲ燒却スヘシ
- 二 家屋掃除ノ際床下ノ塵芥其ノ他ノ不潔物ハ之ヲ取除ケ燒  
却スヘシ
- 三 傳染病患者アリタル家ノ井戸流、臺所流、便所又ハ芥溜ノ  
掃除ヲ要スルトキハ消毒方法ノ施行ヲ了リタル後之ヲ行  
フヘシ但必要ノ場合ニハ修理改造及井戸浚ヲ爲スヘシ

- 四 「ペスト」ニ對シテハ前名號ノ外屋根裏、天井、羽目板間、床下等ニ就テ鼠族ノ搜索驅除ヲ行フヘシ
  - 五 傳染病ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル家ニ於テ施行スル場合亦前各號ヲ準用スヘシ
  - 第二條 傳染病流行ニ際シ溝渠ヲ攪拌スルハ却テ病毒蔓延ノ媒介ヲ爲スノ虞ナシトセス必要ノ場合ニハ消毒藥（生石灰末若クハ石灰）ヲ投シタル後浚渫スヘシ
  - 第三條 傳染病ノ流行前又ハ流行後ニ於テ清潔方法ヲ行ヒ家宅ノ掃除溝渠ノ浚渫ヲ爲ス場合ニ於テハ濫リニ消毒藥ヲ撒布スヘカラス
  - 第四條 溝渠ヲ浚ヘタル汚泥塵芥ハ直ニ一定ノ運搬器ニ入レ健康上有害ナラサル様一定ノ場所ニ棄ツヘシ汚泥ヲ路傍ニ散逸セシメ又ハ之ヲ堆積スヘカラス
- 第二章 消毒方法

第五條 消毒方法ハ左ノ四種トス

- 一 燒却
  - 二 蒸汽消毒
  - 三 煮沸消毒
  - 四 藥物消毒
- 第六條 燒却ニ適スルモノハ左ノ如シ
- 一 傳染病患者若クハ死體ニ用ヒタル被服、臥具、布片、便器其ノ他ノ器具等ニシテ甚シク病毒ニ汚染シ消毒後再ヒ用ニ供スル目的ナキモノ
  - 二 傳染病患者ノ吐瀉物其ノ他ノ排泄物及塵芥動物ノ死體等
- 第七條 蒸汽消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ
- 一 衣服、臥具、布片等總テ絹布、綿布、麻布、毛織物類
  - 二 硝子器、陶器、磁器其ノ他礦製若クハ木製品類等ニシテ瀛熱ニ堪フルモノ

第八條

蒸氣消毒ヲ施行スルトキハ左ノ各項ニ注意スルヲ要ス

四四

- 一 革類、革製品、漆器其ノ他塗物類、護謨製品、護謨附品、糊附品、膠附品、毛皮、象牙、鼈甲、角ノ類ハ物品ヲ損スルヲ以テ蒸氣消毒ヲ避クヘシ
- 二 被服類ニ蒸氣消毒ヲ施スニハ襟メ袖中又ハ衣囊中ヲ檢索シ彈丸、火藥等爆發又ハ發火シ易キ物品アルトキハ之ヲ取出スヘシ又消毒中他物ニ染色ノ恐アルモノ等ハ蒸氣消毒ヲ避クヘシ
- 三 蒸氣消毒ハ流通蒸氣ヲ用ヒ成ルヘク消毒器中ノ空氣ヲ驅逐シ一時間以上攝氏百度以上ノ濕熱ニ觸レシムヘシ

第九條

煮沸消毒ニ適スルモノハ蒸氣消毒ニ適スルモノ同シ煮沸消毒ヘ消毒スヘキ物品ヲ全部水中ニ浸シ沸騰後三十分以上沸煮スヘシ

第十條

藥物消毒ニ供スル藥劑並其ノ用法ハ左ノ如シ

一

石炭酸水

(二十倍)

結晶石炭酸一分、鹽酸一分、水九十四分

石炭酸水ヲ製スルニハ石炭酸五分ニ凡水一分ヲ加ヘ攪拌又ハ振盪シツ、徐々ニ定量ノ水ヲ注キ後鹽酸一分ヲ加フヘシ温湯ヲ用フレハ其ノ溶解殊ニ速カナリトス但使用ノ際ハ毎回振盪スルヲ用ス

石炭酸水ハ各種物件ノ消毒ニ適ス但使用ノ際ハ左ノ諸件ニ注意スヘシ

- 一 吐瀉物其ノ他排泄物ニハ同容量ヲ加ヘ能ク攪拌スヘシ
- 二 器具室内等ヲ消毒スルニハ擦拭又ハ撒布スヘシ
- 三 手足等ヲ消毒スルニハ洗滌シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗淨スヘシ
- 四 衣類等ヲ消毒スルニハ鹽酸ヲ加ヘサルモノヲ用ヒ六時間以上浸漬シ其後淨水ヲ以テ更ニ洗濯スヘシ

四五



一ノ二「クレゾール水」「クレゾール」石鹼液  
六分水九十四分

「クレゾール」水ヲ製スルニハ「クレゾール」石鹼液一分ニ  
定量ノ水ヲ加フヘシ

「クレゾール」水ハ各種物件ノ消毒ニ適シ其ノ用量及應用  
ハ石炭酸水ニ準スヘシ

二 昇汞水(千倍)昇汞一分、鹽酸十分、  
水九百八十九分

昇汞水ヲ製スルニハ昇汞ヲ定量ノ水ニ溶解シ後鹽酸ヲ加  
フヘシ

昇汞水ハ猛毒ニシテ無色無臭ナルカ爲メ危險ヲ速キ易キ  
ノ虞アリ故ニ貯藏使用ノ際充分注意ヲ加ヘ又其ノ危險ヲ  
防カン爲メ「スカレット」又ハ「ゾイレフクシン」其ノ他適  
當ノ色素ヲ加ヘテ著色シ一見識別シ易カラシムルヲ要ス  
但金屬製ノ器ニ貯藏スヘカラス  
昇汞水ハ陶器、硝子器、木製器具又ハ室内ノ消毒ニ適ス飲

三

食用器具、玩具ノ消毒飲料水ニ滲透スヘキ場所ノ消毒及  
金屬製品、糞便、吐瀉物ノ消毒ニ用フヘカラス  
手足等ヲ消毒スルニハ洗滌シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗淨  
スヘシ

生石灰少量ノ水ヲ灌ケハ熱ヲ  
發シテ崩壊スルモノ

生石灰末生石灰ニ少量ノ水ヲ加  
ヘ粉末ト爲シタルモノ

生石灰末ハ用ニ臨ミテ之ヲ製シ吐瀉物其他ノ排泄物、溝  
渠等ノ消毒ニ用フヘシ吐瀉物其ノ他ノ排泄物ヲ消毒スル  
ニハ少クモ其ノ容量五十分一ヲ投シ能ク攪拌スヘシ

石灰乳(十倍)生石灰一分  
水九分

石灰乳ヲ製スルニハ一分ノ生石灰ニ九分ノ水ヲ徐々ニ加  
ヘ能ク攪拌スヘシ其ノ用量ハ吐瀉物其ノ他排泄物等ノ容  
量四分ノ一以上トス但石灰乳ハ用ニ臨ミテ之ヲ製シ使用  
ノ際ニハ毎回攪拌スルヲ要ス

普通石灰ハ生石灰ヲ得ルコト能ハサル場合ニ限リ代用トシテ其ノ倍量ヲ用フヘシ

四

格魯兒石灰水(二十倍) 格魯兒石灰五分  
水九十五分

格魯兒石灰水ノ應用並用量ハ石灰乳ニ同シ

但用ニ臨ミテ製スヘシ

五

加里石鹼又ハ綠石鹼

加里石鹼又ハ綠石鹼三分ヲ熱湯百分ニ溶解シ使用ノ際ニ

ハ加熱スルヲ要ス

加里石鹼又ハ綠石鹼ハ不潔ナル木製器具、戸、障子、床面

等ノ消毒ニ適ス

六

「フォルムアルデヒド」

「フォルムアルデヒド」ハ「フォルマリリン」ヲ噴霧發生セ

シメ又ハ適當ノ裝置ニ依リ之ヲ發生セシムヘシ

「フォルムアルデヒド」ヲ使用セントスル際ハ左ノ諸件

ニ注意スヘシ

一 氣密ニ閉鎖シ得ヘキ消毒函内又ハ土藏造、洋風建物、

船舶、汽車等ニシテ戸扉窓孔等ヲ密閉シ得ヘキ室内

ニ非サレハ之ヲ使用スヘカラス

二 消毒函又ハ室内ノ容積百立方尺ニ付「フォルマリリン」

四十瓦以上ヲ噴霧セシメ若クハ「フォルムアルデヒ

ド」瓦斯十五瓦以上ヲ發生セシメ同時ニ約百瓦以

上ノ水ヲ蒸發セシムルノ比例ヲ以テ處置シタル後七

時間以上密閉シ置クヘシ

「フォルムアルデヒド」ハ左ノ消毒ニ用井ルコトヲ得

一 土藏造、洋風建物、船舶、汽車等ノ密閉シ得ル室内又

ハ室内ニ定著セル器物等ニシテ他ノ消毒方法ヲ行フ

コト能ハサルモノ

二 他ノ消毒方法ヲ行フコト能ハサル貴重品其他ノ物件

五〇  
ニシテ其ノ内部ニ至ルマテ消毒方法ヲ施スノ必要ナ  
シト認メタルモノ

### 第十一條 消毒方法ノ應用ハ左ノ如シ

#### 第一 患者

傳染病患者治癒シタルトキハ全身入浴ヲ行ヒ衣服ヲ更メシ  
ムヘン場合ニ依リテハ溫濕布ヲ以テ拭淨シ入浴ニ代ユルモ  
妨ケナシ

#### 第二 死體

傳染病ノ死體又棺ニ斂ムルニハ其被服ニ昇汞水若クハ石炭  
酸水ヲ充分ニ撒布シ又ハ昇汞水若クハ石炭酸水ニ浸漬シタ  
ル布ヲ以テ包ミ又ハ石灰ヲ以テ填ツヘシ

#### 第三 看病人、病家ノ家人其ノ他病者ニ觸接シタル者

看病人、病家ノ家人其ノ他消毒方法ノ施行又ハ患者、死體、  
排泄物ノ運搬等ノ爲病者ニ觸接シタル者ハ時々若クハ其ノ

都度手足及衣服ヲ消毒シ入浴スヘシ

#### 第四 患者、死體等ノ運搬器

傳染病ノ患者、死體等ヲ運搬シタル駕籠釣臺ノ類ハ使用後  
毎回昇汞水若クハ石炭酸水ヲ以テ擦拭スヘシ

#### 第五 便所、芥溜、溝渠等

傳染病患者ノ吐瀉物其他ノ排泄物ノ入りタル便所ノ糞池、  
肥料溜等ニハ生石灰末石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌キ能  
ク攪拌スヘシ但シ便所ハ石炭酸水ヲ以テ消毒シタル後直ニ  
使用シ糞便ハ一週間ノ後肥料ニ供セシムルコトヲ得  
病者汚染シタル土地ニハ石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌キ  
消毒スヘシ

病者ノ混入シタル芥溜ニハ石灰若クハ格魯兒石灰水ヲ灌キ  
其ノ塵芥ハ燒却スヘシ

病者ノ混入シタル溝渠ニハ生石灰末石灰乳若クハ格魯兒石

灰水ヲ灌クヘシ

第六 衣服器具敷物等

傳染病患者ニ着用セル衣類臥具並其ノ病室ニ在ル諸器具又ハ看病人及患者ニ接シタル家人ノ衣類其ノ他病毒汚染ノ虞アルモノハ各物件ノ種類ニ從ヒ消毒方法ヲ施行スヘシ

第八條第一ニ掲ケタル物品ノ類ハ加里石鹼又ハ綠石鹼（毛皮ニハ避クヘシ）ヲ以テ洗ヒ又ハ石炭酸水ヲ以テ拭淨シ若クハ之ヲ撒布シ又ハ「フオルムアルデヒド」ヲ用フハシ

第五條ニ掲クル各消毒方法ヲ施行スルコト能ハサルモノハ日光ニ曝シ若クハ大氣中ニテ乾燥セシムヘシ

第七 家屋

患者ノ居室其ノ他傳染病毒汚染シ若クハ汚染ノ疑アル室内各部ハ石炭酸水又ハ昇汞水ヲ以テ拭淨スヘシ但土藏造、洋風建物等密閉シ得ヘキ室内ニハ「フオルムアルデヒド」ヲ

用キルコトヲ得

消毒後ハ日光ノ射入空氣ノ流通ヲ良クシ乾燥セシムルヲ要ス

第七ノ二 井戸、水槽等

傳染病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル井戸、水槽等ニハ水量五十分ノ一ノ生石灰ヲ乳狀トナシテ投入シ能ク攪拌シタル後十二時間以上放置シ又ハ適當ノ裝置ニ依リテ熱蒸氣ヲ通シ三十分間以上沸騰セシムヘシ

第八 汽車

傳染病患者若クハ死體アリタル汽車内ノ消毒ハ第七ニ準スヘシ傳染病患者ノ吐瀉物其ノ他排泄物ニ對シテハ消毒藥ヲ混シ適宜處置スヘシ

車室ニ附屬スル便所ハ石炭酸水ヲ以テ消毒スヘシ

第九 船舶

傳染病患者若クハ死體アリタル船室内ノ消毒ハ第七第八ニ準スヘシ其ノ他ノ場所ニ對シテハ消毒藥ノ撒布擦拭等適宜處置スヘシ  
船底水ニハ其ノ容量二百分ノ一生石灰末ヲ加ヘ二十四時間ヲ經タル後汲出サシムヘシ

●傳染病院隔離病舎管理規程

●長野縣訓令第五號

明治三十年八月廿五日

市役所 町村役場

傳染病院、隔離病舎管理規程左ノ通相定ム

- 第一 醫師ハ病院、病舎ノ醫務衛生事務ヲ掌理シ治療其他ニ關スル事務ニ從事スヘシ
- 第二 醫師ハ患者ヲ少クモ一日一回ハ診療スヘシ
- 第三 藥劑師ハ調劑ニ關スル事務ニ從事スヘシ
- 第四 看護人ハ醫師ノ指揮ヲ受ケ看護ニ從事スヘシ

●第四 醫師藥劑師事務員ハ交番宿直スヘシ

●第五 看護人ハ病院病舎ニ在宿スヘシ

看護人ニシテ調劑所及賄場ニ往復スルモノハ豫メ之ヲ定メ置キ其他ハ猥リニ出入セシムヘカラス

●第六 入院患者ノ家族親戚等附添看護ヲ出願スルトキハ之ヲ許可スルコトヲ得

●第七 醫師及看護人等病室ニ入ルトキハ病室用衣ヲ被ヒ病室ヲ出テタルトキハ之ヲ脱スヘシ  
患者ニ面會ヲ請フモノアルトキハ本項ニ準シ病室用衣ヲ被ハシムヘシ

●第八 病室用衣ハ一週二回以上消毒ノ上之ヲ洗濯スヘシ若シ患者ノ排泄物ニ觸レタルトキハ其都度十分消毒ヲ爲スヘシ

●第九 患者護送ノ人夫及運搬ノ器具ハ十分消毒ヲ爲スヘシ  
病室其他ニ於テ患者又ハ其被服寢具器具等ニ觸接シタル

トキハ速ニ手足其他觸接シタル部分ヲ二十倍ノ石炭酸水又ハ千倍ノ昇汞水(着色シタルモノ)ヲ以テ消毒スヘシ

第十 飲料水及飲食物ハ必ス煮沸シタルモノヲ用ユヘシ

第十一 滋養品ノ外患者ノ飲食物ハ差入ヲ許スヘカラス

第十二 患者用ノ飲食器具ハ毎回必ズ之ヲ煮沸シ又ハ熱湯ニテ洗滌スヘシ

第十三 患者ニ供シタル飲食物ノ殘餘ハ直ニ消毒ノ上一定ノ場所ニ棄却スヘシ

第十四 患者ノ吐瀉物其他ノ排泄物ハ必ス一定ノ容器中ニ取り其容量四分ノ一以上ノ生石灰末ヲ投シ能ク攪拌スヘシ

汚水ノ消毒モ亦之ニ準スヘシ

第十五 患者ヲ快復期室ニ移ストキハ豫メ相當ノ消毒方法ヲ爲スヘシ

第十六 患者全癒退院ノ際ハ全身入浴ヲ行ヒ身体ヲ清洗シ然ル

後衣服ヲ更へ退院セシムヘシ

第十七 患者ノ携帶品ニシテ病毒汚染ノ虞アルモノハ消毒方法ヲ行ヒタル後ニアラサレハ還付スヘカラス

第十八 患者ニ觸接シタル物品ニシテ消毒方法ヲ施行スル能ハサルモノハ少クモ六日間日光ニ直射シ乾燥セル場所ニ曝スヘシ

第十九 患者ノ排泄物ニ觸接セシ物品ニシテ價格ノ低廉ナルモノハ成ルヘク之ヲ燒棄スヘシ

第二十 床板、側壁及家具中木製及金屬製ノ部分其他之ト類似ノ物品ハ二十倍石炭酸水ヲ以テ濕シタル布片ヲ以テ拭淨スヘシ但床板、側壁等ヲ消毒スルニハ十倍ノ石炭乳ヲ用ユルモ可ナリ此場合ニ於テハ少クモ二時間放置シタル後洗滌スヘシ病室ハ消毒ヲ終リタル後成ルヘク二十四時間放置シ空氣ヲ流通セシムヘシ

第廿一 埋葬ノ爲メ死体ヲ他所ニ移ストキハ消毒ノ上棺ニ斂メ

之ヲ密閉スヘシ死体ノ運搬ハ未明又ハ夜間ニ於テスヘシ

第廿二 病院、病舎ニハ寢具其他必要ナル器具藥品等ヲ備置ク

ヘシ 病院、病舎ノ諸員及外來者ニ使用セシムル爲メ病室用衣ヲ備

置クヘシ

寢臺ヲ用エサル場合ニ於テハ疊ノ上ニ油紙其他汚物滲透ノ虞

ナキモノヲ敷クヘシ

第廿三 患者ノ携帶品ハ帳簿ニ記載シ置キ紛乱セサル様處理ス

ヘシ

第廿四 病院、病舎ニハ病床日誌及處方録ヲ備置クヘシ

第廿五 患者ハ總テ其病院病舎ノ擔當醫ニ於テ之レヲ取扱フハ

シ若シ患者中他ノ醫師ニ診療ヲ乞ハントスルモノアル片ハ管

理者ニ於テ之ヲ認可シ治療ヲ受ケシムルヲ得ルト雖モ此場合

ニ於テ擔當醫ト協議シ患者ニ對シテハ總テ擔當醫ノ責任トス

第廿六 病院病舎ニハ可成調劑所ヲ設クヘシ

第廿七 病院病舎及豫防事務所ニハ別紙第一號雛形ノ出勤簿ヲ

備ヘ事務員豫防委員醫師藥劑師看護人及小使人夫ヲシテ日々

捺之ニ印セシムヘシ

第廿八 疑似症患者ヘ他ノ患者ト同室セシムヘカラス

第廿九 病症危篤ニ陥リタルモノアルトキハ可成家人又ハ親族

等ニ其旨通知スヘシ

第三十 消耗品受拂簿ハ別紙第二號雛形ニ準シ受拂ノ都度記載

スヘシ

(出勤簿用紙)

月	何	月計
一	二	三
四	五	六
七	八	九
十	十一	十二
十三	十四	十五
十六	十七	十八
十九	二十	二十一
二十二	二十三	二十四
二十五	二十六	二十七
二十八	二十九	三十
事務員	氏名	





記載例

- 一本簿ハ物品ノ異ナル毎ニ口座ヲ設クルコト
- ニ滋養品ノ如キ多數ノ者ニ日々給與スル場合ニハ本簿ハ一人毎ニ記入ヲ畧シ別ニ適宜ノ人別簿等ヲ設ケ給與月日個數等一々區分記入スルコト

●傳染病隔離病舎設置規程

●長野縣令第四十三號 明治三十年八月廿八日

明治三十年八月(六)日本縣令第三十九號傳染病豫防法施行細則第二十九條ニ據リ左ノ市町村ニ傳染病院ヲ其他ノ町村ニハ隔離病舎ヲ設置スヘシ

長野市

一〇〇

一〇〇

北佐久郡	岩村田町	小諸町
小縣郡	上田町	下諏訪町
諏訪郡	上諏訪町	平野村
上伊那郡	伊那町	赤穂村
下伊那郡	飯田町	塩尻村
東筑摩郡	松本市	
更級郡	塩崎村	
埴科郡	松代町	屋代町
上高井郡	須坂町	小布施村
下高井郡	中野町	
下水内郡	飯山町	
南佐久郡	白田町	野澤町
南安曇郡	豊科村	(豊科村、南穂高村、高家村、烏川村組合)

### ●隔離病舎閉鎖中利用法

●警發第二四號

明治卅八年  
七月廿七日

傳染病院若ハ隔離病舎ノ閉鎖中他ノ目的ニ利用セシムルハ經濟上及建物保存上適當ノ處置ト認メ客年二月警收第二〇五三號ヲ以テ及通牒置候ニ付土地ノ狀況ニ依リ夫々利用ノ途ヲ講シ候事ト被察候得共往々其管理タニ全カラス頽廢ヲ來セル向モ有之様見受ラレ候ニ就テハ今後保存上ノ途ヲ講シ候様注意ヲ加ヘラレ度依命此段及通牒候也

各郡市長殿

追テ爲參考全國ニ於ケル利用調査表相添ヘ候

- 一 開業醫ニ貸與 四 七 巡查駐在所ニ利用 二
- 二 衛生幻燈會利用 三 八 教員寓居ニ利用 三
- 三 旅行收容病人及被恤救者 一 九 町村役場ニ利用 四九

四 各種講習所ニ利用 一七 一〇 其他 二

五 蠶業又ハ機業所ニ利用 二 計 八八

六 人民ニ貸與 五

(全日全號ヲ以テ本文ノ主旨各警察署長及分署長ヘモ指示相成リタリ)

### ●病舎設計圖面

●警發第六九號

明治三十二年二月二十七日  
各郡長宛

明治三十年二月警發第五五號ヲ以テ及通牒置候傳染病院隔離病舎ハ最近ノ調査ニ依リ別紙ノ設計ハ最モ適切ナルモノト認メ候條自今該設計ニ基キ施設候様各町村長ヘ御通達相成度此段及通牒候也

### ●病院病舎ニ關スル書類轉送並検査方

各郡長

●警發第二四六號

明治三十一年五月十三日

貴郡ニ於テ傳染病院若ハ隔離病舎新築又ハ變更等願出候節ハ該書類ハ速ニ其所轄警察官署長傳送相成度依命此段申進候也

●警發第二四六號

明治三十一年五月十三日

爾來町村長ヨリ傳染病院若クハ隔離病舎新築又ハ變更等ニ係ル稟請書ハ其所轄ナル郡役所ヨリ送致可相成筈ニ付受領ノ上ハ速ニ適否取調意見ヲ付シ當部ニ回送スヘシ

●警發第二六三號

明治三十二年八月二十二日

病院病舎検査ニ關スル義ニ付指示

市町村ニ於テ傳染病院、隔離病舎及消毒所ヲ新設若クハ改修増設セントスルトキハ豫メ實地踏査ヲ要スル取扱ニ有之候處尙今回本縣令第五十五號ヲ以テ豫防法執行細則第十二條ヲ改正セラレ其第二項ニ依リ市町村ヨリ工事竣工ノ報告ヲ受ケタル片ハ速ニ臨檢シ詳細調査シ不完全ノ廉ハ改訂セシメ其時々開申スベシ

●注射並外科的施術ヲ行フ場合取扱方

●警發第一三〇九三號

明治四十一年八月廿四日

警察署 分署

注射施術之義ニ付指示

公立傳染病院又ハ隔離病舎ニ於テ注射療法ヲ施シ若クハ外科的施術ヲ行フ場合ニハ救急ノ場合ヲ除ク外患者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ全意ヲ經ヘキハ勿論殊ニ學術社會ニ於テ尙一般ニ公認セラレ、ニ至ラサル血清ノ類ヲ注射セントスルカ如キ場合ニハ篤ト其性状ヲ指示シタル上希望ニ依リ使用セシムヘキ旨通牒有之候條相當取計ハルヘシ

●發病地他市町村へ係ルトキ通知方

●警發第三四九號

明治卅三年九月十五日

警察署長 警察分署長

傳染病豫防法第三條ニ依リ届書ヲ受理シ其發病地他町村ニ係ル

トキハ本縣内ニ限り直ニ發病地ノ市町村長ニ通知スヘシ

### 井戸消毒藥計算表

(甲)警發第三八九號

明治三十九年  
八月七日

警察署長 警察分署長

内務省令第十三號清潔方法消毒方法第十一條第七ノ二井戸ノ消毒方法ニ就テハ算法ニ依ラサルヘカラス而シテ其算法ノ計算頗ル煩雜ニシテ容易ナラザルニヨリ有事ニ蒞ミ直ニ施行シ得ヘキ計算表調製セシメ送付候條其署ニ二部各巡查ニ一部ツ、配付シ保存方注意セシムヘシ (表ハ畧ス)

### 消毒藥品ノ溶解及製法

●警發第三一二號

明治四十年  
九月九日

警察署長 警察分署長

傳染病ニ對スル消毒藥品ノ溶解及製法ニ關シテハ内務省令第十三號ノ明示スル處ナルヲ以テ敢テ云爲スルノ必要ヲ認メスト雖

モ往々ニシテ其方法ヲ誤リ合理ナラサル向アリ消毒上危險ノ恐れ尠カラサルニヨリ各種ノ消毒藥品溶解及製法分量別紙ノ通調查候條今後消毒ニ際シ不都合無之様措置セララルヘシ

#### 消毒藥品溶解及製法分量

(一) 石炭酸水(二十倍)

(イ)石炭酸(壹壘)百貳拾匁(貳合四勺九才四)

(ロ)鹽 酸二十四匁 (四勺九才)

(ハ)水 貳貫貳百五拾六匁(四升六合九勺)

備考 日光ノ直射ヲ遮リ使用毎ニ振盪スルヲ要ス

(二) クレゾール水

(イ)クレゾール石鹼液(壹壘)百貳拾匁

(ロ)水 壹貫八百八拾匁(三升九合八才)

備考 日光ニ直射セサルヲ要ス

(三) 昇汞水(千倍)

(い)昇 汞(壹壘)七匁五分

(ろ)塩 酸七拾五匁

(は)水 七貫四百拾七匁五分(壹斗五升四合三勺一才)

備考

七匁五分入壹壘ヲ壹時ニ溶解スルノ分量ナルヲ以テ若シ多量ヲ用キルノ必要ナキ場合

ハ此分量比例ヲ計算シ調製スルヲ要ス

「スカレット」又ハ「ゾイレフクシン」ハ必ス

之ヲ加ヘ適當ニ著色シ危險ヲ防クヲ要ス

(四) 石灰乳(十倍)

(い)生石灰末百匁

(ろ)水 九百匁(壹升八合七勺一才)

備考 用ニ臨ミ之ヲ製シ使用毎ニ攪拌スルヲ要ス

(五) 格魯兒石灰水(二十倍)

(い)格魯兒石灰(壹壘)百貳拾匁

(ろ)水 貳貫貳百八拾匁(四升七合四勺〇二)

備考 石灰乳ニ同シ

(六) 加里石鹼又ハ綠石鹼

(い)加里石鹼(又ハ綠石鹼)(壹壘)貳百拾匁

(ろ)水 四貫匁(八升三合一勺六才)

備考 百貳拾匁ニ對スル分量ナルヲ以テ少量ヲ要ス

ル場合ハ比例ヲ以テ計算スルヲ要ス

●傳染病患者鐵道乘車規程

●遞信省令第三十八號

明治三十三年八月十日

傳染病患者鐵道乘車規程左ノ通定ム

第一條 傳染病患者ヲ乘車セシメントスルトキハ豫メ之カ申込

ヲ爲シ鐵道ノ承諾ヲ受ケタルコトヲ要ス

第二條 前條ノ申込ヲ受ケタルトキハ鐵道ハ列車ヲ指定シ其ノ

他運送上旅客及公衆ノ安全ヲ保スルニ必要ナル事項ヲ指定スルコトヲ得

第三條 傳染病患者ハ傳染病豫防法第九條ニ依リ當該吏員ヨリ移送認可ヲ得タルコトヲ證明スルニ非サレハ乗車セシムルコトヲ得ス

第四條 傳染病患者ニハ少クトモ一人ノ附添人ヲ附スルコトヲ要ス鐵道ノ請求アルトキハ前項附添人ノ外醫師ヲ附スルコトヲ要ス

第五條 傳染病患者ハ貸切車ヲ以テ運送シ普通旅客ト其ノ車輛ヲ區別シ當該掛員ノ外一切之カ交通ヲ遮斷スヘシ

第六條 傳染病患者ハ傳染病豫防法第九條ニ依リ移送ノ認可ヲ受ケタル地ノ外猥リニ下車セシムルコトヲ得ス

第七條 傳染病患者ヲ搭載セル車輛ハ其ノ入口ニ「傳染病患者」ノ四字ヲ指示スヘシ

第八條 傳染病患者車中ニ於テ死亡シタルトキハ警察官又ハ其ノ他ノ當該吏員ニ之ヲ申報スヘシ

第九條 乗車中傳染病ニ罹リタルモノアルトキハ速ニ警察官又ハ其ノ他當該吏員ニ之ヲ申報スヘシ

第十條 車輛器具ノ消毒其ノ他傳染病豫防ニ關スル取締ハ一般法令ノ規定ニ依ル

附 則

第十一條 本規定ハ鐵道營業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●傳染病豫防消毒取扱手續

●長野縣訓令第四十八號

明治卅一年五月六日

郡市役所 警察署 警察分署 町村役場

傳染病豫防消毒取扱手續左ノ通相定ム

第一條 市町村長ニ於テ傳染病ノ届出又ハ通報ヲ受ケ若ハ傳染

病ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アルコトヲ知リタルトキハ豫テ設備ノ消毒藥並ニ消毒器具ヲ携帯セシメ直ニ其ノ家ニ臨ミ消毒方法及清潔方法ヲ實施セシムヘシ但其方法ハ明治三十年五月内務省令第十三號ノ規程ニ依ル

第二條 市町村長ニ於テ前條ノ消毒方法及清潔方法執行ノ際ハ

警察官吏ニ通報スヘシ

第三條 消毒方法施行ノ際ハ左ノ各項ヲ調査スヘシ

- 一 發病ノ誘因系統
- 二 醫師診斷迄ノ病狀
- 三 發病後又ハ醫師診斷後ニ交通セシ家及ヒ出入又ハ看護ニ來リタル者ノ族籍氏名
- 四 不快ヲ感シタル後上リタル便所若ハ其場所
- 五 不快ヲ感シタル後起臥又ハ業ヲ執リ若クハ外出シタル場
- 六 不快ヲ感シタル後使用シタル臥具、食器、衣服手拭及病毒

汚染ノ虞レアル物件

七 傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル事實

第四條

- 一 患者ノ室ニアリタル物件ハ消毒前之ヲ室外ニ取出サ、ル様取締ヲ爲ス
- 二 看護人ノ外家族其他ノ者ニシテ患者ニ接シタルモノハ之レヲ一室ニ避ケシメ身体消毒ノ手續ヲ爲ス
- 三 必要ト認ムルトキハ患者ヲ傳染病院若ハ隔離病舎又ハ相當設備アル病院ニ移スノ準備ヲ爲サシムルヲ但移送ノ際ハ途中患者ニ必要ナル藥品器具飲料等ヲ準備スヘシ
- 四 便所其他消毒汚染ノ虞アル者ニ對シ消毒ニ著手スルヲ但藥品ノ良否分量及消毒施行ノ方法ハ單ニ人夫ニ放任セス嚴ニ監督スヘシ
- 五 交通遮斷ヲ要スルトキハ其家族ニ對シ遮斷中ノ心得ヲ懇

論スル

六 患者ヲ移送セシ後ハ其居室及臥具、衣服ノ消毒ヲ先ニシ  
 順次其他内外ノ消毒及清潔方法ノ施行ニ着手スル  
 但家族ニシテ強壯ノモノアラハ消毒付着ノ恐ナキ場所ノ  
 清潔方法其他ノ施行ヲ補助セシメ嚴ニ監督ヲ爲スヘシ

第五條 患家又ハ傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家ノ消毒

方法ハ左ノ順序ニ依リ取扱フヘシ

- 一 戸障子、敷居鴨居、器具ハ消毒藥ニテ拭淨スルコト
- 二 戸障子ヲ取り除キ又ハ開放スル
- 三 器具及疊ヲ屋外ニ出ダシ日光ニ曝ス
- 四 床上並ニ床下ニ消毒藥ヲ散布シ塵埃ヲ燒却スル
- 第六條 看病人及家族ノ消毒方法ハ左ノ順序ニ依リ取扱フヘシ
- 一 爪ヲ剪ル
- 二 沐浴(頭髮ハ洗滌)ヲ爲ス

三 患者自宅ニアル際ニ於テ寢食ヲ共ニセシトキ着用セシ衣

服、臥具、食器等ハ總テ煮沸シタル後洗濯スル

第七條

井戸、下水ノ清潔方法ハ左ノ順序ニ依リ取扱フヘシ

一 井戸ハ井戸端ヲ洗ヒ病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アルトキ

ハ消毒ノ上井戸浚ヲ爲ス

二 下水消毒後數時間ヨ經テ塵芥ヲ取除キ燒却スル

第八條 削除

● 長野縣訓令第十九號

明治四十年  
三月十九日

郡役所 警察署 警察分署

煮沸水使用法左ノ通定ム

煮沸水使用方法

第一條 消化器系傳染病患者發生シタルトキハ衛生組合又ハ市  
 町村ヲシテ其部落ニ煮沸水ノ使用ヲ實行セシムヘシ



煮沸水ノ使用ニ就テハ市町村吏員豫防委員又ハ衛生組合ノ役員ヲシテ補助セシムヘシ

第二條 煮沸水使用ノ日數ハ患者發生シ之ヲ實行シタル日ヨリ起算シ十日間トシ又其期間ニ於テ患者發生シタルトキハ更ニ其當日ヨリ起算セシムヘシ

第三條 煮沸水使用ノ費途ハ左ノ區別ニ依ラシムヘシ  
一 個人ノ自衛ニ一任シ實行シ得ヘキ土地ニ於テハ各自ノ負擔トス

二 前項ニ該當セサル土地ニ在テハ衛生組合ノ負擔トス  
三 衛生組合ニ於テ十分ナル實行ヲ期シ難シト認ムルトキハ市町村ノ負擔トス

第四條 煮沸水ヲ使用セシムルトキハ豫メ其區域内ノ住民ニ對シ懇切ニ使用ノ目的及方法其他諸般ノ注意ヲ説示セシムヘシ  
第五條 煮沸水ヲ供給スル場合ニ於テ之ヲ使用セサル者アリト

認ムルトキハ便宜ノ方法ニ依リ危險ノ虞アル飲料水ヲ遮斷又ハ封鎖セシムヘシ

第六條 煮沸水ハ左ニ記載セハ總テノ使途ニ充テシムヘシ  
一 飲料水含嗽料、食物及飲食器具ノ洗滌料  
二 洗面及手足ノ洗滌料

第七條 煮沸水ノ容器ハ總テ覆蓋ヲ設ケ柄杓ノ柄ハ水中ニ浸入セサルノ裝置ヲ爲シ容器ハ使用前煮沸水ヲ以テ洗滌セシムヘシ

第八條 柄杓、昆虫又ハ塵埃等ノ附着ヲ防クノ裝置ヲ爲サシムヘシ

第九條 容器、荷桶、柄杓等ハ總テ煮沸水用ト生水用トヲ區別スヘシ  
第十條 衛生組合又ハ市町村ニ於テ煮沸水ヲ供給スル片ハ左ノ各項ニ依ラシムヘシ

- 一 水質、釜場ノ位置、釜ノ容量、配付戸數、人口等ノ調査ヲ爲スコト
  - 二 釜場ニハ監督者ヲ置クコト
  - 三 人夫ニハ清潔ナル被服ヲ着用セシムルコト
  - 四 人夫ノ手ハ時々洗滌シ常ニ清潔ヲ保タシムルコト
  - 五 煮沸ハ攝氏百度以上トシ尙三十分間以上沸騰セシムルコト
  - 六 煮沸水供給ノ最低標準ハ一日一人ニ付凡五升トスルコト
  - 七 交通遮斷區域内ニハ人夫ヲ入ラシメサルコト
- 第十一條 煮沸水使用ノ監督ハ市町村吏員豫防委員又ハ衛生組合員ヲシテ毎日一回以上其區域内ノ各戸ニ就キ左ノ事項ヲ注意セシムヘシ
- 一 煮沸水供給ノ過不足
  - 二 煮沸水使用ノ適否

三 生水使用ノ有無

●煮沸水使用實行方

●長野縣訓令第十七號 明治四十年 三月十二日 郡役所 警察署 警察分署

消化器系傳染病毒ハ飲食物ヲ介シテ人体ニ侵入スルモノナルヲ以テ之レカ豫防上緊要ナルハ飲用水及使用水ヲ煮沸スルニアリ之ヲ以テ從來屢々誘導指示スル所アリト雖モ未タ十分ナル實行ヲ見ルコト能ハサルノ憾ナキ能ハス依テ自今患者發生シタルトキハ消毒方法ヲ勵行スルト同時ニ煮沸水使用ヲ實行セシムヘシ

●腸室扶斯診斷液使用規程

●長野縣訓令第十八號 明治四十年 三月十二日 第四部 警察署 警察分署

腸室扶斯診斷液使用規程左ノ通定ム

第一條 腸室扶斯診斷液及該使用器ハ警察官署ニ備ヘ置クヘシ

第二條 腸室扶斯診斷液ハ警察官署ニ於テ腸室扶斯ノ疑似症ニ

對シ確診ノ必要アル場合ニ限り醫師ヲシテ使用セシムヘシ

第三條 前條ニ依リ腸室扶斯診斷液ヲ使用セシメタルトキハ醫

師ヨリ左ノ事項ヲ申告セシメ警察官署ハ之ヲ取纏メ翌月五日

限リ第四部長ニ報告スヘシ

一 患者病狀ノ摘要

二 發病後診斷液使用ニ到ル迄ノ日時

三 成績

四 其他參考トナルヘキ事項

●腸室扶斯診斷液使用方

●警發第八七號

明治四十年三月十六日

警察署長 警察分署長

腸室扶斯診斷液ニ關スル義ニ付指示

腸室扶斯病ノ發生ハ明治三十八年以來漸次其數ヲ増加シ三十九

年ノ如キ實ニ全國ノ第三位ヲ占ムルニ至リタリ此ノ如キ實況ナ  
 リシヲ以テ其裏面ニ於テハ或ハ隱蔽ヲ遂ケ或ハ輕症ニ經過シタ  
 ル者アリシヤモ測ラレス故ニ從テ病毒ハ各方面ニ散蔓シ今後多  
 數患者ノ發生ヲ見ルニ至ルナキヲ保シ難シ依テ之レカ豫防方法  
 トシテ今般簡便ニシテ且確實ト認ムル淺川氏ノ診斷液使用規程  
 ヲ定メラル、ニ至リタリ就テハ爾後隱蔽患者ノ摘發ニ努力スヘ  
 キハ勿論患者アリタルトキハ消毒方法ヲ的確ニ實行セシメ尙左  
 ノ事項ニヨリ適當ノ措置ヲ施シ以テ遺算ナキヲ期スヘシ

- 一 自宅治療ノ場合ハ可成其家族ニ豫防液ヲ注射セシムルコト
- 二 患者ニハ煮沸水ヲ使用セシムコト
- 三 患者ハ專任ノ看護人ヲ定メシムルコト
- 四 診斷液ハ暗冷ノ場所ニ藏置スルコト
- 五 診斷液欠乏シタルトキハ第四部ニ請求スルコト

六 診斷液使用器ノ保管ニ注意スルコト

●腸室扶斯菌携帶陸軍下士卒現役

免除者取扱方

●警收第一六六三七號 明治四十一年 十月十四日 警察署長 警察分署長

腸室扶斯ニ關スル義ニ付指示

陸軍下士卒中腸室扶斯ニ罹リ全病治癒後六ヶ月以上ニ亘リ尙腸室扶斯菌ヲ排泄スル者ハ現役免除相成候趣ニ付除役ノ通牒アリタルトキハ注意視察ヲ加フヘキハ勿論排泄物ノ消毒ヲ施行セシメラルヘシ

●豫防液請求承認方

●警察部長通牒 明治四十三年十一月四日 各郡市長宛 傳染病研究所傳染病豫防液賣渡手續ニ依ルニ市町村等ニ於テ請

求スル場合ハ一々縣ニ申請シ其承認ヲ得タル後ニアラサレハ請求スル能ハサルニ依リ此間少カラサル日子ヲ要シ遂ニ其機ヲ失シ豫防上遺憾ノ場合尠カラサルヲ以テ便宜ノ爲メ各警察官署長ヲシテ市町村役場、學校、病院、製造所等ノ請求ニ係ル該承認事項ノ取扱ヲ爲サシムルコト、相定候條管内當事者ヘ示達方御配慮相成度此段及通牒候也

●警察部長指示 明治四十三年十一月四日 各警察官署長

爾今市町村學校、病院、製造所等ヨリ傳染病豫防ノ爲メ傳染病研究所ヘ豫防液ノ請求ヲ爲ス場合ノ承認方法ヲ左ノ通相定候條努メテ敏捷ニ應急ノ便ヲ與フヘシ

- 一 承認ノ申請ハ知事宛ニ認メシメテ受理スルコト
- 一 承認書ハ第一號様式ニ調製シ常部ヨリ豫メ用紙ヲ送付スヘキニ付申請ノ都度相當記入原簿ニ契印シテ交付スルコト

各署ニハ第二號様式ノ豫防液承認原簿ヲ調製シ置キ要項記載ノ上前號ノ手續ヲ爲スコト  
結果ハ明治四十年警發第二〇七號指示ニ準シ總テ報告スルコト

(様式畧ス)

●赤痢病豫防液注射獎勵及成績報告方

●警發第二〇七號

明治四十年六月七日

警察署長 警察分署長

赤痢病豫防液注射ハ之ヲ施行シ直チニ感染ヲ絶無ニスルヲ得ヘシト斷言スルコト能ハスト雖各地ニ於テ實施シタル成績ニ依リテ調査スルトキハ豫防上ニ多大ノ効果ヲ奏シタルヤ爭フヘカラサルノ事實アリトス就テハ今後赤痢病流行地又ハ其附近ニシテ危険ノ虞アリト認ムル部落ノ住民ニ對シ是レカ實施ヲ勸誘指導シ以テ豫防ノ實行ヲ舉クル様各郡長ニ通牒置候條該病流行ノ

場合ハ市町村ニ對シ之レカ實施ヲ促シ而シテ實行シタルトキハ終熄後直ニ左表ニ依リ報告セラルヘシ

市町村名	患者數	全上死亡數	豫防注射人員數	全上ノ内免疫後權起前罹病者數	注射施行前ノ患者數	注射施行後ノ患者數

●腸窒扶斯豫防液注射成績報告方

●警察部長指示

大正元年十月廿九日 發第九九號

赤痢及腸窒扶斯等ノ豫防液注射ノ義ニ付テハ豫テ一般ニ督勵シツ、アル所ナルカ其ノ結果報告ニ關シ赤痢ハ明治四十年六月警發第二〇七號ヲ以テ指示セルアリ然ルニ近時之カ注射ヲ行ヒタ

ルニモ不拘其ノ報告ヲ爲サ、ル向モ有之防疫計畫上差問不尠爾  
今全病ニ對シテハ勿論腸窒扶斯ニ對シテモ施行シタル結果ハ必  
ス全指示様式ニ準シ報告スル義ト心得ラルヘシ

### ●實布的里亞血清請賣勸誘方

●警發第二三〇號

明治四十二年  
七月二十九日

警察署長 警察分署長

血清請賣勸誘方ノ義ニ付指示

傳染病實布的里亞ノ治法ハ血清ノ外ニ他ニ良法ナキハ今ヤ皆人  
ノ知ル處トス然ルニ血清賣捌ヲナスモノ縣下甚タ稀ニシテ僻遠  
ノ醫師ハ之レカ購買ニ日子ヲ費シ自然治療ノ時期ヲ失シ患者ヲ  
シテ不幸ノ轉歸ヲ取ラシムル場合少シトセス就テハ藥業者ヲ勸  
誘シ血清請賣ヲナサシムヘシ且ツ從來該血清請賣營業ノモノア  
ラハ其人名並ニ昨年ヨリ本年六月ニ至ル賣捌高ヲ取調ヘ至急上  
申スハシ

### ●消化器系傳染病豫防方法

●長野縣訓令第四十八號

明治四十年  
六月廿一日

郡役所 警察署 警察分署 市役所 町村役場

消化器系傳染病豫防方法左ノ通定ム

第一條 消化器系傳染病發生シタルトキハ其ノ區域ヲ左ノ三區

ニ別チ豫防ニ從事スヘシ

一 發生區 二 關係區 三 注意區

第二條 前條ノ區別ハ發生時ヨリ少クモ五日以前ニ遡リ原因系

統其ノ他豫防上必要ナル事項ヲ調査シ之ヲ定ムヘシ

第三條 左ノ各項ニ該當スルモノヲ發生區トス

一 患家及患家ト交通シ病毒傳播ノ虞アルモノ

二 患家ノ井戸又ハ便所ヲ共用シタルモノニシテ病毒傳播ノ

虞アルモノ

- 三 發病ノ原因ト認ムル事項ヲ共ニシタルモノ
- 四 其ノ他必要ト認ムタルモノ
- 第四條 左ノ各項ニ該當スルモノヲ關係區トス
  - 一 患家ト交通シタル疑ヒアルモノ
  - 二 患家ト井戸ヲ共用シタル疑ヒアルモノ
  - 三 患家附近ノ井戸ヲ使用シタルモノ
  - 四 患家老廢水ノ注流スル下水又ハ河川ヲ使用シ若ハ使用シタル疑ヒアルモノ
  - 五 其ノ他必要ト認ムタルモノ
- 第五條 發生區及關係區ノ附近ニシテ左ノ各項ニ該當スルモノヲ注意區トス
  - 一 水質不良、下水排除ノ不完全ナル部落
  - 二 多人數集散ノ場所
  - 三 前年流行ノ部落

- 第六條 發生區域内ニハ左ノ事項ヲ施行セシムヘシ
    - 一 消毒方法、清潔方法
    - 二 煮沸水ノ供給方法
    - 三 消毒方法施行後凡五日間毎日一回健康診斷
  - 第七條 關係區及注意區域内ニハ左ノ事項ヲ施行セシムヘシ
    - 一 清潔方法
    - 二 第六條第三號ノ期間毎日一回檢病の戸口調査
  - 第八條 關係區及注意區域内ニハ可成煮沸水ノ使用ヲ獎勵スヘシ
  - 第九條 患者發生セル市町村以外ノ者ニシテ患家ト交通シ既ニ退去シ若ハ退去セントスル者アルトキハ最初之ヲ認知シタル官公署ヨリ速ニ其ノ所轄警察官署及市町村ニ通報スヘシ
  - 前項ノ通報ヲ受ケタル警察官署及市町村ニ於テハ感染ノ有無ニ注意シ疑ハシキ場合ハ醫師ヲシテ診斷セシムヘシ
- 傳染病豫防委員設置規程

●長野縣令第四十六號 明治三十年九月十七日  
傳染病豫防委員設置規程左ノ通り相定ム

傳染病豫防委員設置規程

第一條 豫防委員ノ組織及其選舉ハ傳染病豫防法第十五條ニ依ル

豫防委員ハ醫師ヲ加ヘ戸數五百戸迄ハ五名以上七名以下其戸數五百戸ヲ増ス毎ニ一名ヲ加フヘシ但土地ノ情況ニ依リ特ニ増員ノ必要アルトキハ届出認可ヲ受クヘシ

第二條 豫防委員ハ市町村ノ傳染病豫防救治ニ關スル事務ヲ擔任ス

第三條 消毒方法施行ノ際患家ニ對シテハ左ノ各項ヲ調査スヘシ

- 一 發病ノ誘因系統
- 二 醫師診斷迄ノ病狀

- 三 發病後又ハ醫師診斷後ニ交通セシ家及ヒ出入又ハ看護ニ來リタル者ノ族籍氏名
- 四 不快ヲ感シタル後上リタル便所若ハ其場所
- 五 不快ヲ感シタル後起臥又ハ業ヲ執リ若ハ外出シタル場所
- 六 傳染病患者ノ収容又ハ死体埋葬ニ關スル
- 七 種痘ニ關スル
- 八 前各項ノ外必要ノ事項

●傳染病豫防委員心得

●檢疫部長通牒 (三十一年七月廿五日 檢發第一八號)

今回訓令第八十七號ヲ以テ市町村ニ傳染病豫防委員設置方指示相成候ニ付テハ各町村ニ於テ夫々撰定シ又ハ撰定中ニ可有之ト存候就テハ右委員ノ心得書御送致候間各町村ニ一部ツ、御配付ノ上各項ノ施設ヲ全カラシメ且豫防ノ實効ヲ収ムル様町村長ニ



御懇達相成度依命此段通牒候也

市町村傳染病豫防委員ノ心得ヲ示セバ左ノ如シ

一 豫防方法ニ關スル事

一 衣服身体ヲ清潔ニシ不消化物又ハ過度ノ飲食ヲ爲サシメ

サル事

二 家屋ハ常ニ掃除シ晴天ノ日ニハ戸障子ヲ開キ空氣ヲ通ワ

セシムル事

三 飲料水及ヒ使用水ハ深キ井戸水ノ外煮沸シタルモノヲ用

ヒシムル事

四 未熟ノ果物又ハ腐敗ニ傾キタル飲食物等ヲ販賣セシメサ

ル様注意シ尙ホ各自此種ノ飲食物ヲ供用セシメサル事

五 飲食物ニハ常ニ蓋ヲナシ蠅ノ群集ヲ防カシムル事

六 多人數會同シ飲食ヲ爲サシメサル事

七 不潔物等河川ニ投シ又ハ其河川ニ於テ洗濯セシメサル事

八 祈禱ニ耽溺シ醫療ヲ忽シセサル事

九 傳染病及疑似患者ヲ隠蔽セシムル虞アルトキハ直ニ檢

診ノ手續ヲ爲ス事

十 患者發生ノ際交通關係ノ部落ヘハ速ニ通知ヲ爲スベキ事

十一 病家ノ用水ヲ他家ニ於テ用ヒントスルトキハ必ス煮沸

セシムル事

十二 交通遮斷中食品其他ノ需用供給ニ不便ヲカラシムル事

十三 病家ニ對シテハ交通遮斷中ノ心得ヲ懇諭スル事

十四 交通遮斷ノ病家ト近隣トノ交通ハ嚴重之レヲ監視スル

事

右ノ外豫防ニ關スル事項

二 傳染病豫防諸費ニ關スル事項

三 病院病舎ノ設備及管理

一 建物及物品ノ管理其他庶務ニ從事シ看護婦小使賄役人夫

- 一 等ヲ監督スル事
- 二 交番宿直ヲ爲ス事
- 三 病室衣ハ時々蒸氣消毒ヲ爲シ一週二回以上洗濯スル事
- 四 事務所ト病室トヲ猥リニ交通セシメサル事
- 五 病室ノ物品ハ必ず消毒ノ上之ヲ室外ニ出タス事
- 六 入院患者ニ面會ヲ請フモノアルトキハ病毒ニ感染セサル様注意ヲ爲ス事
- 七 患者ノ飲食物ハ總テ醫員ノ指定若シタハ検査ヲ經タルモノニ非ラサレハ用ヒシメサル事
- 八 飲料水ハ一度煮沸シ食物ハ能ク煮タル者ヲ用セシムル事
- 九 患者ニ供シタル飲食物ノ餘リ物ハ直チニ一定ノ入物ニ移シ消毒ヲ爲ス事
- 十 飲食器具ハ事務所ト病室トヲ區別シ之ヲ混セシメサル事
- 十一 病室ノ飲食器具ハ使用ノ都度消毒スル事

- 十二 看護人附添看護人及消毒夫等ノ消毒衣ハ時々消毒スル事
- 十三 患者ヲ送り來リタル人夫及運搬器ハ消毒シタル後ニ非ザレバ外部ニ出サザル事
- 十四 糞池、下水等ハ日々消毒シ便所及病室ハ消毒藥ヲ布片ノ類ニ浸シ拭ヒ淨ムル事
- 十五 患者ノ汚レ物ハ入物ヲ定メ其都度消毒シ塵芥等ハ取纏メ毎日二回以上焼棄スル事
- 十六 糞便及吐瀉物ハ其都度消毒藥ヲ注ギ更ニ煮沸消毒ヲ爲ス事
- 十七 病室内ノ汚水ハ消毒シタル後ニ非サレバ他ニ棄ツヘカラサル事
- 十八 患者全癒退院ノ際ハ全身入浴ヲ行ヒ後チ衣服ヲ改メ退院セシムル事

十九 患者ノ携帶品ハ消毒ノ上ニ非サレハ還付スヘカラサル事

九八

二十 院舎ニハ寢具其他必要ナル器具藥品等ヲ備ヘ置ク事

廿一 院舎ニハ掛員其他ニ使用セシムル爲メ病室用衣ヲ備ヘ置ク事

廿二 病室ニ寢臺ヲ用ヒサル場合ニハ疊ノ上ニ油紙ノ類ヲ敷

キ汚物滲透ノ虞ナキ様爲サシムル事

廿三 患者ノ携帶品ハ帳簿ニ記載シ紛亂セサル様處理スル事

廿四 看護人消毒人夫等解備ノトキハ規程ノ日時間隔離セシムル事

廿五 附添看護人タリトモ病室内ニテ飲食セシメサル事

廿六 面會人院舎ヲ出ツル際ハ必ス手足ノ消毒ヲ爲サシムル事

廿七 患者ノ賄ハ院舎内ニ於テシ患家ヨリ持運ヒヲ爲サシメ

四 サル事

消毒器械器具及藥品ニ關スル事

左ノ種目ニ依リ設備スル事

一 蒸汽消毒器械 但附屬品共

二 手桶

三 甕

四 石油空罐

五 柄杓

六 如露

七 釣臺

八 消毒衣

九 石炭酸

十 昇汞

十一 鹽酸

九九

十二 生石灰

五 清潔方法及消毒方法ニ關スル事

- 一 不潔ト認メタル床下ノ塵芥ヲ取除カシムル事
- 二 下水、井戸流シハ浚渫掃除シ汚水ヲ停滞セシメザル事
- 二 糞尿汚水ハ之ヲ汲取リ其便所及汚水溜ノ周圍ヲ掃除シ破損セルモノハ之ヲ改造又ハ修理セシムル事
- 四 塵芥ハ無害ノ場所ニ連搬スルカ又ハ燒キ棄ツル事
- 五 汚水滲透ノ虞アル井戸側ヲ改築若シクハ改修又ハ井戸浚ヒヲ爲サシムル事
- 六 患者ノ便器ノ外部ハ時々消毒セシムル事
- 七 患者用ノ便器ハ一定ノ場所ニ置キ蓋ヲ爲サシムル事
- 八 消毒藥ノ調製及使用ニ注意スル事
- 九 手洗ノ爲メ石炭酸水及淨水ヲ一定ノ場所ニ設クル事
- 十 看護人便器其他ノ汚物ヲ取扱ヒタルトキハ必ス手ヲ消毒

七シムル事

十一 蠅ヲ驅除スル事

十二 洗濯シタル汚ゴレ水ハ一定ノ場所ニテ消毒ヲ爲サシムル事

十三 患者及死者ノ着用シタル衣服、臥具蚊張其他室内ニ在リタル器具物品ハ規程ノ通り消毒セシムル事

十四 患者アリタル室内ノ戸障子敷居鴨居疊筵敷物ノ類ヲ隈ナク前項ノ手續ヲ爲ス事

六 患者收容及死体埋葬ニ關スル事

一 患者ヲ病舎ニ移送ノ際ハ途中患者ニ必要ナル藥品、器具、飲料ヲ準備スル事

二 死体ハ消毒藥ニ浸シタル布片ヲ以テ全身ヲ包ミ棺ニ収メ速ニ埋葬ノ手續ヲ爲ス事

三 埋火葬ノ際ハ人夫ニ一任セス嚴ニ監督ヲ爲ス事

四 死体ノ運搬ハ可成未明又ハ夜間ニ於テスル事

七 豫防委員ハ擔當區ヲ分チ常ニ其區内ヲ巡視シ懇篤說示スル事

八 豫防委員事務所ニハ日誌ヲ備ヘ勤務ノ方法其他必要ノ事項ヲ登記スル事

●豫防委員設置上申方

●警發第二六四號

明治卅六年  
八月七日

警察署長 警察分署長

豫防委員設置方之義ニ付指示

赤痢豫防上患者發生シタルトキ又ハ三四名ノ續發ノ場合ニ至リ豫防委員設置ノ指示ヲ發シタルハ從來ノ慣例ナリシモ一名ノ患者發生ニ此指定ヲ爲シ續發ヲ見サルトキハ徒ニ町村ノ費用ヲ膨大ナラシムルノ恐アリ又續發ノ場合ニ至リ指定スルトキハ爲メニ事機ヲ失シ蔓延ヲ來スノ憂ナキニアラス就テハ今後患者發生

ノ届出アリタルトキハ其原因系統狀況等十分ノ調査ヲ爲ス報告ト同時ニ豫防委員設置ノ要否ヲ添上申スヘシ  
第一次ノ報告ニ於テ豫防委員設置ノ必要ヲ認めサルモ爾後ノ狀況上必要ヲ認ムルニ至リタルトキハ直ニ上申スヘシ

●豫防委員設置上申方

●警發第二七一號

明治四十年  
八月十日

警察署長 警察分署長

赤痢病發生ノ場合ニ於ケル豫防委員設置方ニ關シテハ明治三十六年八月警發第二六四號ヲ以テ指示セシ處ナルモ往々事機ヲ失スルノ嫌ヒナキニアラス就テハ今後注意ヲ拂フヘキハ勿論腸窒扶斯患者發生ノ場合ニ於テモ該指示ニ準シ措置セラルヘシ

●傳染病豫防上醫師雇入方

●長野縣訓令第三十號

明治卅一年  
四月一日

郡役所 警察署 警察分署

明治三十年三月法律第三十六號傳染病豫防法第三條又ハ第四條ノ届出ヲ受ケ又ハ傳染病アルコトヲ知リタル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ醫師ヲシテ診斷セシムヘシ  
前項ニ依リ臨時醫師ヲ備入ル、トキハ其勤務日數ニ應シ一人一日金壹圓五十錢以内ヲ目途トシ手當ヲ給與シ旅費ハ縣費給與規則ニ依リ支給スヘキヲ以テ請求書ヲ徴シ其時々進達スヘシ

●傳染病患者名簿調製方

●警發第九二號 明治三十年一月廿九日 警察署長 警察分署長

明治二十八年四月本縣訓令第三十九號傳染病報告手續第一條及第三條ノ通報ヲ受ケタルトキハ左ノ名簿ヲ備ヘ置キ其都度整理スヘシ (名稱様式畧ス)

●傳染病患者土葬許可證下付方

●警收第九〇五七號ノ三 明治三十年一月廿一日 警察署長分署長

傳染病豫防法第十二條ニ依リ土葬ヲ許可スルトキハ其證下付スヘシ

●學生傳染病ニ罹リシトキ通報方

●警發第三一八號 明治四十年九月十二日 警察署長 警察分署長

傳染病患者通報方ノ義ニ付指示

明治三十一年文部省令第二十號學校傳染病豫防及消毒方法第八條ニ依リ尋常、高等小學校ニ於テ生徒通學區域ニ傳染病患者アルトキハ通學スル生徒ノ昇校ヲ停止スル場合アルヲ以テ生徒ノ家族ニシテ傳染病ニ罹リタルトキハ可成受持巡查ヲシテ口頭又ハ紙片ニ其生徒ノ氏名並ニ患者名ヲ記シ通學セル學校長ニ通報セシメラルヘシ

追テ中等程度ノ各學校へ通學スル生徒ニシテ遠隔ナル場合ハ警察官署ヨリ端書ヲ以テ通報セラルヘシ

### ●傳染病終熄時ニ於ケル注意方

●警發第四三三號

明治四十一年十月五日

警察署長 警察分署長

防疫ニ關スル義ニ付指示

傳染病豫防ノ状態ヲ觀察スルニ流行激甚ナルトキハ當該吏員ノ  
罄力相伴フト雖モ漸次終熄ニ向フニ從ヒ自然緩慢ニ流ル、ノ傾  
向アリ爲メニ病毒ヲ撲滅シ得サルノ憾ナキニアラス就テハ今後  
部下ヲ督勵スルト全時ニ市町村當該吏員ニ對シテモ十分ノ注意  
ヲ拂ハシメ叙上ノ憾ナカラシムル様措置セララルヘシ

### ●傳染病患者收容方

●警察部長指示

明治四十年八月十二日  
警發 第二七三號

警察署長 全分署長

傳染病豫防ニ關スル義ニ付指示

縣下ニ於ケル傳染病豫防ノ事務ハ客年以來其成績甚タ良好ナラ

ス畢竟一般衛生思想ノ幼稚ナルト局ニ當ルモノ其發生ノ場合ニ  
於テ十分ナル豫防消毒ノ方法ヲ講セサリシニ依ルモノト認メサ  
ルヲ得ヌ今ヤ本縣廳室扶斯患者數ノ如キハ俄カニ増加ノ趨勢ヲ  
示シ已ニ全國ノ第六位ニ上リ尙且ツ續發ノ實況ヲ呈シ此ノ勢ヲ  
以テ進ムトキハ慘害殆ト測知スヘカラサルモノアリ之ヲ以テ本  
年三月訓令第一七號全第一八號全第一九號及六月訓令第四八號  
其他各種ノ衛生法規ヲ嚴重ニ適用スルハ勿論町村並ニ衛生組合  
等ヲ督勵シ講話幻燈等十分ノ方法ヲ盡シ一旦患者發生スルトキ  
ハ其多少ニ係ハラズ躊躇ナク之ヲ病舎ニ收容シ流行ヲ小局部ニ  
制限シ決シテ非常ノ流行ヲ來サ、ルコトニ努メラルヘシ  
(全年全月全日全號ヲ以テ各郡市長へ本趣旨ノ通牒アリ)

### ●傳染病患者收容方

●警察部長指示

明治四十年九月六日  
警發 第三〇一號

警察署長 全分署長

傳染病患者收容ニ關スル義ニ付指示

膺室扶斯患者收容ニ關シ客月十二日警發第二七三號ヲ以テ及指  
示置候處今尙往々以來ノ通措置セル向モ有之候趣相聞ヘ遺憾不  
尠抑モ該通牒ノ趣旨ハ客年來頓ニ患者數増加シ益蔓延ノ狀況ヲ  
呈スルニ依リ之ヲ從來ノ取扱方ニ止ムル片ハ如何ナル慘害ヲ來  
ス可ヤ豫測シ難キ實況ナルヲ以テ根本ヨリ之ヲ勦絶セントスル  
ニ出テタル義ニ有之候條今後必ス該指示ニ依リ措置セラルヘシ

交通遮斷中充員召集ニ關スル件

●警收第一四四八號

明治三十四年十一月五日

各郡長宛

傳染病豫防法ニ依リ交通遮斷中ノ軍人又ハ兵役義務者ニシテ充  
員召集令狀ヲ受ケタル場合ニ於ケル處置方ニ付今般鹿兒島縣ノ  
照會ニ對シ左記ノ通り衛生局長ヨリ回答セシ旨通牒有之候條爲  
御參考及御通知候也

●衛甲第六五號

客月五日付號外ヲ以テ警部長ヨリ交通遮斷中ニ在ル軍人又ハ兵  
役義務者ニシテ充員召集令狀ヲ受ケタル場合ニ對スル處置方ニ  
付御照會ノ趣了承右ハ御見解ノ通り傳染病豫防法ニ依リ一旦交  
通遮斷ヲ命シタル以上ハ其日時間ニ縱ヒ充員召集令アルモ外出  
セシムヘキモノニアラスト存候條伺ノ上此段及御回答候也

明治三十四年十一月一日

内務省衛生局長

追テ右ハ陸軍省ト協議濟ニ候條御了知相成度候也

●交通遮斷施行方針變更ニ關スル件

●警收第二五三五號

明治四十年二月廿七日

警察署長 警察分署長

赤痢病豫防ニ關シテハ傳染病豫防法發布以來交通遮斷ヲ嚴行ス  
ルノ方針ヲ執リ來リ候所爾來地方ノ病況ニ鑑ミ又豫防法策ノ進  
歩ニ就テ考察スルニ特別ノ場合ヲ除ク外最早之ヲ施行スルノ必



要無シト被認候間傳染病豫防法施行規則第六條第一項乃至第三號ノ處分ハ之ヲ廢止候方寧ロ大局ノ防疫上利益可有之旨衛生局長ヨリ通牒有之候條爾後右ノ方針ニ依リ措置方取計フヘシ

●傳染病豫防法中隔離ニ關スル件

●衛甲第四六號 明治廿八年九月十三日

傳染病豫防法中隔離ニ關スル件

今般福岡縣知事ヨリ傳染病豫防法中隔離ニ關スル義ニ附キ甲號ノ通問合有之乙號ノ通回答候條參考迄此段及御通知候也

年 月 日 內務省衛生局長 窪田靜太郎

長野縣知事大山綱昌殿

(甲號)

衛發第四七〇號

本年三月法律第五六號ヲ以テ傳染病豫防法中改正アリ又同六月

內務省令第一四號ヲ以テ同施行規則ニ改正ヲ加ヘラレ交通遮斷ト隔離トヲ全然區別シ其施行ノ場合ヲ異ニスル事ト相成候處交通遮斷ニ關シテハ豫防法第三十一條中ニ其違反者制裁ヲ加フルノ規定有之候ニ付執行上確實ヲ期スルヲ得ルモ隔離ヲ犯シタル者則チ濫リニ他ヨリ隔離所又ハ隔離セラレタル場所ニ立入り若クハ被隔離者ニシテ此等ノ場所ヲ立出テタル者アル場合ニ於テ本法ノミナラス施行規則ニ於テモ之ヲ制裁スルニ何等ノ規定無之ニ付其執行ノ確實ヲ期シ豫防ノ目的ヲ達スル上ニ於テ稍遺憾ナキ能ハサル感有之當縣ニ於テハ以上ノ事項ニ對シ相當ノ者ニ規定ヲ設ケ度精神ニ有之候然ルニ右隔離所ノ執行ニ違犯シタル對シ制裁ヲ加フルノ規定ヲ設ケラレサリシハ單ニ該吏員ノ取締ニ一任シ其隙ニ乘シ他出シ又ハ他ヨリ立入ルモノ、如キハ別段制裁ヲ加フルノ必要ナシト認メラレタルモノナルヤ又ハ隔離違犯者ニ對シ制裁ヲ加フルハ不穩當ナリトスルノ精神ナルヤ若ク

ハ地方ノ規定ニ讓ルトノ御主旨ナルヤ將タ被隔離者ハ病毒感染ノ疑アル者ニ付隔離所又ハ隔離セラレタル場所ハ病毒汚染ノ疑アルモノトシテ隔離ト共ニ交通遮斷ヲ施行スヘキモノナルヤ從來健康者隔離ニ對シ別ニ制裁ヲ加フルノ規定ナカリシモ其執行ノ場合ハ殆ント稀有ニシテ豫防上何等ノ影響ヲ見サリシモ今回ノ改正ニ於テハ隔離ノ執行ハ從來ノ交通遮斷ニ代ハルヘキモノニシテ執行ノ確否ハ豫防上大關係ヲ有シ旁々疑義相生シ御意見承知致度候條折返シ何分ノ御報相成度此段及問合候也

明治三十八年八月廿一日 福岡縣知事

内務省衛生局長宛 (乙號) 回答

本月二十一日衛發第四七〇號ヲ以テ傳染病豫防法中隔離ニ關シ御照會ノ趣了承隔離ノ執行ニ當リテハ當然内外ノ交通ヲ禁止スルニアラサレハ其目的ヲ達シ難ク去リトテ隔離所等ヲ病毒汚染

ノ疑アル場所トシテ交通遮斷ヲ命スヘキモノニ無之ト被存候本來隔離處分ハ可所特設ノ隔離所若クハ傳染病院又ハ隔離病舎ノ隔離室ニ於テ之ヲ行フモノニシテ右ノ設備ナキ等已ムヲ得サル場合ニハ適當ノ場所ヲ假設隔離所ニ充テ又ハ消毒方法ノ施行ヲ了リタル家ニ於テ隔離ヲ行ヒ得ル義ニ候ヘハ右隔離所ノ管理方法ハ法第十七條ニ依リ病院病舎ノ管理方法同様地方長官ニ於テ御規定相成可然又消毒方法ノ施行ヲ了リタル家ニ於ケル隔離ノ取締ニ關シテハ必要ト御認メ相成候ハ右ニ準シ相當御規定相成リ之ニ制裁ヲ附スルモ支障無之ト存候條御承知相成度此段及回答候也

明治三十八年九月十二日 衛生局長

福岡縣知事宛

ベスト豫防上鼠届出ノ件

●長野縣令第四十九號 明治三十五年十月十九日

「ペスト」病豫防上必要ニ付宅地内ニ於テ斃鼠ヲ發見シタルトキハ該屍体ニ觸レサル様注意シ直ニ所轄警察官署巡查駐在所巡查派出所又ハ巡行ノ警察官吏ニ届出ヘシ  
前項ノ場合ニ於テ斃鼠ハ當該官吏ノ指示ニ從ヒ相當ノ處置ヲナスヘシ  
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○ペスト豫防取締上鐵道貨物取扱方

(甲) 警收第一八五〇一號 明治三十九年十二月廿一日 警察署長 警察分局長

「ペスト」有病地ヨリ鐵道便ニ依リ輸入スル貨物取扱ニ關シ今回別紙寫ノ通り衛生局長ヨリ通牒有之候條取締上必要ノ場合ハ當該驛長へ着荷ノ品目個數等通報方交渉シ可成驛務ニ煩ヘヲ與ヘサル様注意シ停車場取締巡查ノ派出アル場所ハ該巡查ヲシテ聞取ラシムル等便宜簡捷ニ取計ハルヘシ

(別紙)

●衛丘第二三二號ノ内

「ペスト」有病地ヨリ鐵道便ニ依リ輸入スル貨物取扱ニ關シ今般別紙寫ノ通り遞信省ト協商致置候ニ付貴管下ニ於テ取締上必要ノ場合ハ當該驛長へ着荷ノ品目個數等通報方御交渉相成度尤モ其通知方ニ關シテハ可成驛務ニ煩ヒヲ與ヘサル様御注意相成リ停車場取締巡查ノ派出アル場所ノ如キハ該巡查ヲシテ聞取ラシムル等便宜簡捷ニ取計ハレ度爲念此段及通牒候也

明治三十九年十二月十一日

内務省衛生局長

知事宛

●衛五二二三二號

「ペスト」豫防ノ爲メ有病地ヨリ他ノ輸送スル貨物中古綿、襪、古紙、古着、古敷物、古麻袋、古革皮、古毛布類ハ消毒濟其ノ他ノ事由ニ依リ當該警察官署ノ許可證アルニアラサレハ他ノ地方ニ

於テ輸入ヲ許サ、ル義ニ有之候處當業者中往々密輸入ヲ企タル者等有之候爲メ取締上極メテ必要有之候條地方長官ニ於テ官私鐵道當該驛長ニ對シ一定地方ヨリノ發送ニ係ル前掲貨物ニシテ其ノ停車場ニ到着ノ際其ノ品目個數等警察官署ニ通報方協議致シ候場合ハ可然取計候様通達相煩度此段及照會候也

明治三十九年十二月一日

内務省衛生局長

遞信省鐵道局長宛

回 答

●鐵庶甲第一四二八號

本月一日付衛丘二三二號ヲ以テ「ペスト」豫防取締ノ件ニ關シ照會ノ趣了承右ハ鐵道作業局及各私設鐵道會社ハ夫々示達方取計置候條右様了知相成度候也

明治三十九年十二月五日

遞信省鐵道局長

内務省衛生局長

●ペスト豫防上古着等輸入取締方

●警收第二一一號

明治四十年一月九日

警察署長 警察分署長

「ペスト」豫防上古着古綿襪褌其他ノ物件輸入ニ關スル取締ニ關シテハ再三及指示置候次第モ有之候處尙ホ近來當業者中使用濟ノ證明書ヲ利用スルモノ頻ニ有之趣ニ付テハ輸入地ノ警察官署ニ於テ承認ヲ與フルト全時ニ右證明書ヲ一々引揚クルヲ取計ヒ又有病地ヨリ消毒ヲ受ケスシテ密輸入シタル貨物ナルコトヲ發見シタル場合ハ爾今其他ニ於テ相當消毒ヲ施行セシムヘク若シ消毒施行ノ設備ナキ等不得止事故ニヨリ輸出地へ返還セシムル場合ハ該貨物ニ對シ病毒ノ他ニ散逸セサル様措置セシメ其還付ト全時ニ輸出地ハ勿論通過ノ警察官署並ニ當部ニ速報スヘシ

●ペスト豫防心得

●長野縣訓令第四號

明治四十年二月十五日

郡役所 警察署 警察分署 市役所 町村役場

明治三十二年「ペスト」ノ神戸市、廣島市ニ侵襲セシ以來東京、大阪、神奈川、静岡、和歌山ノ府縣ニ其猛威ヲ逞フシ幾多ノ生命ヲ損害シ巨額ノ財産ヲ消耗シ爾來流行區域ヲ擴メ本縣ノ如キ又交通上ノ關係ヨリ客歲十一月該病疑似症ノ發生ヲ見ルニ至リシガ如キ洵ニ寒心ニ耐ヘサル所ナリ今ニシテ銳意之カ豫防ヲ畫策セズンバ竟ニ病毒ノ侵襲ヲ受クルコトナキヲ保セズ就テハ該病ノ豫防ニ關シ別紙豫防心得ニ準據シ周到ノ注意ヲ以テ緩急其宜シキニ適フノ措置ヲ取ルベシ

「ペスト」豫防心得

- 第一條 「ペスト」發生ノ虞アルトキハ一般人民ニ對シ家屋内外ノ清潔保持、鼠族驅除ノ持續等豫防上必要ノ事項ヲ施行スヘシ
- 第二條 「ペスト」疑似症ニ對シ傳染病豫防法ノ全部ヲ適用シ又

當該吏員ハ死亡診斷書ニ注意シ「ペスト」ニ疑ハシキ急性病ナルトキハ醫師ヲシテ死体檢案ヲ行ハシム

第三條 貨物集散場附近、勞働者居住地、不潔部落其ノ他必要ト認ムル地域ニ對シテハ特ニ除鼠の清潔方法ヲ施行スヘシ

第四條 綿花、穀類、豆粕、革、皮、襪、古綿、古着、古麻囊、古敷物、古羽毛、古紙等ヲ貯藏スル倉庫ハ可成其ノ底面ヲ石又ハ煉瓦若ハ「コンクリート」トナシ其ノ外部ニ通スル孔隙ニハ金網ヲ被ヒ又天井ハ勿論重壁ヲモ設ケサラシムル等鼠族ノ交通棲息ヲ防禦スルノ設備ヲ爲サシムヘシ

第五條 「ペスト」ノ診斷ハ臨床的症候ニ據ルノ外細菌検査ノ成績ニ依リテ決定スヘシ

第六條 「ペスト」患者ハ直ニ之ヲ傳染病院又ハ隔離病舎ニ收容スヘシ

第七條 「ペスト」患者アリタル家、有菌鼠ノ續出ニ依リ著シク

病毒ニ汚染セル家及同上ノ家ト棟ヲ同フスル家其ノ他患者又ハ鼠ノ交通ニ依リ病毒ニ汚染セリト認ムル家ハ交通ヲ遮斷シ遮斷區域内ノ周圍ニハ亞鉛板ヲ繞ラシ下水口ニ金網ヲ施ス等豫メ鼠ノ交通ヲ杜絶スルノ設備ヲ爲スヘシ

第八條 交通遮斷區域内ノ居住者ハ其破服携帶品ヲ消毒シタル後之ヲ隔離所又ハ適當ナル場所ニ隔離シ同區域内ニハ二日以上多數ノ殺鼠劑及捕鼠器ヲ配置シタル後除鼠的消毒方法ヲ施行スヘシ

殺鼠劑ヲ配置スルトキハ之カ配置及回収ヲ明確ニシテ解毒藥及二十倍ノ石炭酸水ヲモ配付シ且ツ使用上ノ注意ヲ與フヘシ  
第九條 遮斷區域ニ接續スル地域又ハ有菌若ハ有菌ノ疑アル鼠ノ發見等ニ依リ豫防措置ヲ必要トスル地域ハ之ヲ豫防區域ト定メ除鼠的清潔方法ヲ施行スヘシ但シ有菌若ハ其疑アル鼠アリタル家又ハ病毒汚染ノ疑アル物件其ノ他必要ト認ムル部

分ニ對シテハ消毒方法ヲ施行スヘシ  
他ノ地ニ於テ感染シタル系統分明ナル者發病シ直ニ之ヲ發見シタル場合等病毒ノ鼠族ニ傳播シタル範圍未ダ狹少ナリト認ムル場合ニハ前項ノ措置ヲ省畧スルコトヲ得  
第十條 第八條ニ依リ隔離シタル居住者及豫防區域内ニ對シテハ相當期間内健康診斷ヲ施行スヘシ  
除鼠的消毒方法ニ從事セシメタル人夫ニ對シテモ亦前項ニ準スヘシ

第十一條 「ペスト」患者又ハ有菌鼠發生シタル地及「ペスト」流行地ト交通頻繁ナル場所ニ於テハ左ノ各號ニ依リ豫防措置ヲ施行スヘシ  
一 市町村ハ抽籤・懸賞等ノ方法ヲ設ケ一般ニ鼠ノ驅除ヲ獎勵スルコト  
二 貨物集散場附近、労働者居住地、不潔部落其ノ他豫防上注

意ヲ要スヘキ部落ニ對シ檢病的戸口調査ヲ行ヒ急性發熱患者アルトキハ醫師ヲシテ檢診セシムルコト

三 急性病ノ死體檢案ヲ行フコト

四 市町村及個人ヲシテ臨時清潔方法ヲ施行セシメ左ニ掲グル場所ニ對シテハ特ニ除鼠の清潔方法ヲ施行スベシ

イ、貨物陸揚場、停車場其ノ他貨物集散場及其ノ附近

ロ、貨物運送店、綿花、穀類、豆粕、革、皮、襪襪、古綿、古着、

古麻囊、古敷物、古羽毛、古紙等ノ商店及全上倉庫物置

ハ、勞働者居住地及不潔部落

ニ、紡績、製絲、織物、製紙、釀造、精穀、製粉、革、皮、羽毛製

品類ノ工場

ホ、貨物運送船

第十二條 除鼠の消毒方法、清潔方法施行ノ際鼠ノ交通棲息ノ虞アル箇所ハ相當修理セシメ且ツ剝離シタル箇所ハ可成原形

ニ復サシムヘシ

第十三條 「ペスト」患者又ハ有菌鼠續出シ病毒蔓延ノ虞アリト認ムルトキハ其ノ狀況及交通遮斷ノ區域戸數人口並其ノ畧圖

ヲ添ヘ急報シ命ヲ受ケタル後交通遮斷及除鼠の消毒方法ヲ嚴

行スヘシ

第十四條 「ペスト」發生地域ニ於ケル塵芥ハ之ヲ燒却シ襪襪、

紙屑、古綿、古着、古敷物類ハ消毒方法ヲ施行シタル後ニ非ラ

ザレバ他ニ輸送セシム可ラス 但シ無病地ヨリ輸送ニ係リ未

タ包装ヲ解カザルモノ等ニシテ警察官署ニ於テ病毒汚染ノ虞

ナシト認メタルトキハ此ノ限リニ非ラス

第十五條 「ペスト」流行地ト交通アル地ニ於テハ旅人ノ健康ニ

注意スルノ外流行地ヨリ來リ又ハ其ノ地ヲ經過セル汽車内ノ

塵芥ハ一定ノ場所ニ於テ燒却セシムヘシ

第十六條 瀛車内ニ「ペスト」患者死者又ハ有菌鼠アリタルトキ

- ハ左ノ各號ニ據リ豫防措置ヲ施行スヘシ
- 一 患者ハ傳染病院又ハ隔離病舎其ノ他適當ノ場所ニ収容シ死者ハ必要ナル處置ヲ爲シタル後引取者ニ引渡シ若シ引取者ナキトキハ明治三十二年三月法律第九十三號行旅病人及行旅死亡人取扱法ニ據リ處置スルコト
- 二 患者又ハ死者アリタル車室及病毒汚染ノ疑アル車室ハ之ヲ隔離シテ消毒方法ヲ施行シ病毒感染ノ疑アル乗客ハ消毒方法ヲ施行シタル後隔離所其ノ他適當ノ場所ニ隔離スルコト
- 三 患者又ハ死者ノ手荷物ハ消毒方法ヲ施行スルコト
- 四 消毒其ノ他設備ノ都合等ニ依リ前各號ノ事項ヲ施行スルコト能ハサルトキハ假ニ病毒ノ散逸ヲ防グベキ相當ノ手當ヲ爲シ急報ノ命ヲ俟テ處置スルコト
- 五 汽車ノ停車シタル地ノ警察官署ニ關係事項ヲ急報スルコト

- 第十七條 第十六條第五號ノ通報ヲ受ケタル警察官署又ハ汽車ニ病毒汚染ノ事實アリタルコトヲ發見シタル警察官署ニ於テハ病毒潜伏ノ疑アル期間貨物運搬人夫及當該汽車ニ關係アル者ニ對シ其ノ健康状態ニ注意スヘシ
- 第十八條 病毒ニ汚染シタル家屋、倉庫、汽車内等ニアリタル貨物ニシテ已ニ他ニ移シタルモノハ一時搬出輸送ヲ停止シ其ノ間積入倉庫及關係アル家屋ニ對シ殺鼠劑捕鼠器ノ配置其ノ他適當ノ方法ニ依リ鼠ノ驅除ヲ勵行シ且驅除シタル鼠其ノ他必要ト認ムル材料ニ就テ細菌ノ検査ヲ行フヘシ
- 前項末段ノ検査ニ於テ「ベスト」菌ヲ發見シタルトキ又ハ調査ノ結果病毒汚染ノ形蹟アリト認メタルトキハ當該貨物同積入倉庫及當該貨物ノ運搬用ニ供シタル解船貨車等ニ對シ消毒方法ヲ施行セシムヘシ



第十九條 病毒汚染ノ疑アル貨物ト全一倉庫内ニ在リ又ハ全一ノ解船貨車ニテ運搬セラレタル他ノ貨物ニ對シテハ當該倉庫解船、貨車内ニ於テ有菌鼠ヲ發見シタル等ニ依リ病毒汚染ノ疑アリト認メタル場合ハ消毒方法ヲ施行セシムヘシ

第二十條 「ペスト」發生ノ狀況豫防措置ノ大要ハ其ノ都度又繼續施行セル豫防事務ノ成績ハ警察官署長ヨリ毎月五日左記様式ニ依リ之ヲ當廳ニ報告スヘシ

第二十一條 交通遮斷又ハ除鼠的消毒方法清潔方法ノ處置ニ關シ各個人ニ止マラズシテ一部落ニ及ブモノ又ハ交通機關ニ影響スル場合ハ急報命ヲ俟テ施行スベシ

第一號表

號ペスト患者報告

警察(分)署

所住

職業

姓名

女男

齡年

診斷	發病	發見ノ方法	住家及周圍ノ狀況 有菌鼠又ハ疑ハシ キ鼠ノ有無	發病前健康ノ 狀態	病毒ノ系統傳染ノ 因機會ノ認ムベキ モノ	發見當時ノ症候大 要細菌検査ノ成績	發病地域ニ對 スル豫防措發
月 日 月 日 確定	月 日 月 日 確定						

(注意) 本表ハ患者發生ノ順序ニ依リ番號ヲ附スルモノトス  
轉月日ハ其都度報告ヲ要ス死後ノ發見ニ係ルトキハ本報告

中死亡月日ヲ付記スヘシ  
第二號表

號有菌ペスト生鼠報告 警察(分)署

發見ノ場所	發見ノ日	發見ノ月	發見ノ日	發見ノ方法	發見場所附近ノ狀況	病毒系統ト認ムヘキモノ	發見地域ニ對スル豫防措置
	見	月	日	確 定			

(注意) 本表有菌鼠發見ノ順序ニ依リ番號ヲ附スルモノトス  
同所ニ於テ數頭ヲ發見シタルトキハ其頭數ヘ場所ヲ明記シ

且ツ號數ヲ自何號至何號ト記スヘシ  
第三號表

ペスト遮斷區域内豫防事務成績

區域ノ位置	戶數	倉庫	除鼠的消毒方法ニ從事シタル人員	全上開始並終了月日	除鼠裝置ノ配置個數全日數	除鼠數 生鼠 斃鼠	檢診成績 普通患者
	人口					同上ノ生鼠 内有菌斃鼠	ペスト患者

消毒シタル消毒ノ概量

1110

第四號表ノ一

月一般豫防事務成績報告 警察(分)署

一、除鼠成績

市町村名	除鼠數		其他
	買収	其他計	
計			
累計			

内

譯

細菌検査ハスト菌細菌検査  
ヲ行ヒタ  
ルモノ  
モ有ス  
ルモノ

幹固又ハ腐敗セルモノ

第四號表ノ二

二、死体検案成績

市町村名	男女	腦膜炎	肺炎	肋膜炎	脚氣	腦出血	心臟麻痺	敗血症	膿血症	腺炎	筋肉炎	丹毒	トバ	其他	其他	其他
計																
累計																

第四號ノ三

三、除鼠の清潔方法施行成績

市町村名	住家	市場	工場	停車場	貨物揚場	倉庫	除鼠數
計							
累計							

1111

市町村名	戸数	人口	患者	疑似者	注意者	其ノ他傳染病患者
計						
累計						
第四號ノ四						

四、檢診成績

市町村名	檢診ヲ行ヒタル		患者	疑似者	注意者	其ノ他傳染病患者
	戸数	人口				
計						

累計

●除鼠的消毒方法清潔方法施行手續

●長野縣訓令第六號

明治四十年二月十九日

郡役所 警察署 警察分署 市役所 町村役場  
「ペスト」豫防ニ關スル除鼠消毒方法清潔方法施行手續左ノ通り定ム

第一條 除鼠的消毒方法清潔方法ヲ施行セントスル區域内ニハ  
二日以上日々殺鼠劑捕鼠器等ノ除鼠裝置ヲ配置シ其ノ成績ヲ  
檢査スヘシ  
前項ノ除鼠裝置ハ天井裏、床下、流シ下、棚上等常ニ鼠ノ交通  
スル場所ニ配置スヘク其ノ個數ハ家屋ノ大小ニ依リ一定シ難  
シト雖モ殺鼠劑ハ一戸平均十個以上トシ倉庫、物置等ニ在リ

テハ一坪ニ付約一個ノ割合トナスヘシ

第二條 除鼠の消毒方法清潔方法ノ施行ニ從事セシムル人員ハ人夫五名乃至十名ヲ以テ一組トナシ警察官吏及市町村吏員ニ於テ之ヲ監督シ施行區域ノ廣狹ニ依リ若干組ヲ設置スヘシ但シ毎組ノ人夫中ニハ可成大工及屋根職ノ心得アル者各一名ヲ加フヘシ

前項ノ人夫ヲシテ除鼠の消毒方法ノ施行ニ從事セシムル場合ニハ其ノ衣服ヲ相當ノ消毒衣ニ着替シメ又足袋、手袋、帽ヲ用キシムルヲ要ス必要アルトキハ呼吸器若ハ棉花ヲ以テ鼻口ヲ被ハシムル等ノ方法ニ依リ塵埃吸入ノ豫防ニ注意セシムヘシ區域外ニ出ツル場合ニハ其ノ都度相當消毒沐浴ハ上原服ニ更メシムヘシ

第三條 除鼠の消毒方法施行區域大ナル場合ハ日々ノ施行小區域ヲ更ニ亞鉛板塀其ノ他鼠ノ交通ヲ杜絶スル装置ニ依リ區劃

スヘシ

第四條 除鼠方法ハ左ノ各項ニ依リ施行スヘシ

- 一 天井ノ一部若ハ全部ヲ取外シ鼠及其ノ巢ヲ搜索シ掃除ヲ行フコト
- 二 床板及臺所流シハ其一部ヲ取外シ鼠ノ搜索ヲ行ヒ孔穴アルトキハ之ヲ發掘スルコト 但シ土地ニ密着セル床板及臺所流シハ其ノ全部ヲ剝離スルコト
- 三 羽目板、下見板等ハ其ノ全部若ハ一部ヲ壁ハ必要アルトキハ其ノ一部ヲ剝離シ間隙内ニ於ケル鼠ノ搜索ヲ行フコト
- 四 屋根及屋根裏ハ間隙ノ有無ヲ檢シ孔穴アルトキハ瓦屋根ニ在リテハ其ノ全部若ハ一部ヲ藁屋根ニ在リテハ其ノ全部ヲ剝離シ鼠及其ノ巢ヲ搜索スルコト
- 五 倉庫、物置等ニ在リテハ貨物其ノ他ノ物品ヲ搬出シ若ハ

相當ノ方法ヲ施シタル後特ニ其ノ地盤ヲ精査シ孔穴アルトキハ之ヲ發掘シ鼠ノ搜索ヲ行フコト

六 密閉シ得ヘキ倉庫類ニ在リテハ可成「フオルムアルデヒード」又ハ亞硫酸瓦斯ヲ用ヒ鼠ヲ燻殺スルコト

七 溝渠ハ之ヲ精査シ孔穴アルトキハ之ヲ發掘シテ鼠ノ搜索ヲ行フコト

第五條

- 消毒方法ハ左ノ各項ニ依リ施行スヘシ
- 一 屋根裏、天井板、羽目板類ハ石炭酸水又ハ昇汞水等ノ消毒藥液ヲ以テ處置スルコト
  - 二 戸、障子、押入レ棚類ハ消毒藥液ヲ以テ拭淨スルコト
  - 三 疊、蓆、敷物類ハ消毒藥液ヲ以テ拭淨シ若ハ之ヲ撒布シタル後日光ニ曝露スルコト
  - 四 常用ノ衣類、寢具ハ蒸氣消毒又ハ煮沸消毒ニ附シ常用ノ什器ハ其ノ品類ニ應シ熱氣消毒、藥液消毒又ハ日光ニ付

- 五 床下地盤、臺所流シ下、下水、溝渠、便所、芥溜其ノ他不潔ナル場所ハ石灰乳ヲ以テ消毒スルコト
- 六 井戸、井戸流シハ病毒汚染ノ疑ヒアルトキハ石灰乳ヲ以テ消毒スルコト
- 七 患者ノ排泄物又ハ排泄物ヲ以テ汚染シタル物品ハ之ヲ燒却若ハ熱氣消毒ニ附シ塵芥ハ必ズ之ヲ燒却スルコト
- 八 包裝シタル貨物ハ包裝ノ儘蒸氣消毒ニ付シ若ハ其ノ外表ヲ消毒藥液ヲ以テ處置シ穀類及其ノ他ノ食料品ハ其ノ外包ヲ熱氣消毒又ハ燒却ニ付スルコト
- 九 前項ノ消毒方法ヲ施行シ能ハサルモノハ反覆日光ニ曝スルコト

- 十 包装ノ内部ニ至ル迄病毒汚染ノ疑アル貨物ハ其ノ包装ヲ解キ相當ノ消毒方法ヲ施行スルコト
- 十一 煉瓦倉庫土藏洋風建物等ノ密閉シ得ヘキ室内ハ「フオルムアルデヒド」ヲ以テ消毒スルモ妨ケナキコト
- 十二 船舶、鐵道客車、貨車等ニ消毒方法ヲ施行セントスルトキハ前各號ニ準據スルコト

第六條

- 一 清潔方法ハ左ノ各項ニ依リ施行スヘシ
- 二 掃除ハ鼠ヲ驅除シタル後ニ行フコト
- 三 斃鼠ノ在リタル場所其他病毒汚染ノ疑アル不潔ナル場所ハ消毒方法ヲ行ヒタル後掃除ヲ行フコト
- 四 汚水停滞ノ場所ニ對シテハ溝渠ヲ浚渫スルコト
- 五 屋根裏、壁、床下、臺所流シ、溝渠等ニ鼠ノ交通棲息ノ虞アル孔穴アルトキハ之ヲ填塞シ必要ノ場合ニハ修理改造ヲ爲スコト

五 塵芥ハ之ヲ焼却スルコト

●「ペスト」菌取扱取締規則

●内務省令第三十九號

明治三十四年十二月廿五日

「ペスト」菌取扱取締規則左ノ通定ム

「ペスト」菌取扱取締規則

- 第一條 生活「ペスト」菌又ハ之ニ疑ハシキ細菌ヲ貯藏シ其ノ培養又ハ動物試験等ヲ行ハントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ
- 一 検査所ノ名稱及位置
- 二 検査所建物ノ構造敷地ノ坪數及圖面
- 三 所長主任者及主任代理者ノ氏名、履歷
- 前項ノ認可ヲ受ケタル後前各號ノ事項ニ變更ヲ要スルトキハ更ニ認可ヲ受クヘシ

地方長官ハ必要ト認ムルトキハ認可ヲ取消スコトヲ得

第二條 検査所ノ開始及廢止ハ五日以内ニ地方長官ニ届出ヘシ

第三條 検査所ハ他ノ建物ト隔離スヘシ 但シ一建物ヲ區畫シ

テ其ノ一部ニ検査所ヲ設クルコトヲ得

検査所ニハ少クモ左ノ三室ヲ設ケ其ノ出入口ノ戸扉ニハ鎖鑰

ヲ備フヘシ

一 「ペスト」菌ノ培養及顯微鏡検査室

二 試驗動物ノ收容及解剖室

三 消毒室

第四條 検査所各室ノ床及側壁不滲透質ノ材料ニテ造リ洗滌消

毒ニ便ニスヘシ

窓、換氣孔、排水孔其ノ他外部ニ開口スル孔隙ハ蚊蠅ノ出入ヲ

防クニ足ルヘキ緻密ナル金網ヲ以テ被フヘシ

汚水溜ニハ蓋覆ヲ設ケ其ノ周壁及排水管ハ不滲透質ノ材料ニ

ヲ造ルヘシ

第五條 検査所ニ於テハ左記ノ器具、装置ヲ設備スヘシ

一 生活「ペスト」菌及有菌ノ疑アル材料ノ容器

ニシテ金網製ノ蓋ヲ有スルモノ

三 消毒装置(燒却爐、蒸氣消毒器、乾熱消毒器、消毒藥瓿ノ類)

四 其ノ他「ペスト」菌ノ検査ニ必要ナル物品

第六條 検査所主任及其ノ代理者ハ「ペスト」菌ノ培養「ペスト」

菌ノ検査及試驗動物ノ取扱其ノ他ノ取締ニ關シ左ノ各項ヲ遵

守スヘシ

一 主任又ハ其ノ代理者ノ在ラサルトキハ助手、使丁ヲ検査

室ニ留マラシムヘカラス

二 検査室、動物室、消毒室等ニハ猥ニ他人ヲ入ラシムヘカラ

ス



- 三 何人ト雖モ検査室、動物室、消毒室ニ入ル際ハ豫防衣ヲ着シ出ルトキハ之ヲ脱シ手足ヲ消毒スヘシ又室内ニ於テハ飲食、喫煙スヘカラス
- 四 豫防衣ハ一週二回以上消毒ヲ行ヒ之ヲ洗濯スヘシ若病毒ニ汚染シタルトキハ其ノ都度消毒ヲ行フヘシ
- 五 検査室ニハ無用ノ物品ヲ置クヘカラス
- 六 室内ノ物品ハ消毒ヲ行ヒタル後ニ非レハ他ニ搬出スヘカラス
- 七 生活「ペスト」菌及有菌ノ疑アル材料ハ確實ニ閉鎖シ得ヘキ容器ニ納メ主任又ハ其ノ代理者ノ外手ヲ觸ルヘカラス
- 八 汚物又ハ汚物ニ觸レタル物品ハ速ニ消毒ヲ行ヒ又ハ焼却スヘシ
- 九 一度検査室ニ入レタル動物ハ撲殺ノ上焼却スヘシ
- 十 斃死シタル試験動物ハ焼却スヘシ

- 十一 汚水溜ノ汚水ハ消毒ヲ行ヒタル後ニアラサレハ他ニ搬出スヘカラス
- 十二 主任又ハ其ノ代理者検査室ヲ退出スルトキハ出入口ノ戸扉ニ鎖鑰ヲ施スヘシ
- 第七條 生活「ペスト」菌及有菌ノ疑アル材料ノ紛失又ハ試験中ノ動物逸シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ直ニ所轄警察官署ヲ經テ地方長官ニ届出ヘシ
- 第八條 生活「ペスト」菌有菌ノ疑アル材料ハ何人ト雖モ之ヲ授受スルコトヲ得ス 但シ検査所間又ハ官廳ト検査所間若ハ警察官署ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第九條 生活「ペスト」菌ヲ遞送スル場合ニハ培養物ヲ入レタル硝子管ヲ熔閉シ瀘過紙又ハ綿等柔軟ナル物ヲ以テ被包シ「ブリキ」罐内ニ入レ更ニ之ヲ木箱ニ納メ柔軟ナル物ヲ以テ填充シテ嚴封ヲ施シ「注意物」ト明記スヘシ

患者若ハ死體等ヨリ採取シタル検査材料ヲ遞送スル場合ニハ之ヲ密閉シ得ル硝子壺内ニ納メ前項ニ準シテ之ヲ處置スヘシ

第十條 診断ノ目的ヲ以テ臨時施行スル醫師ノ検査ニ對シテハ本則ヲ適用セス 但シ地方長官ハ必要ト認ムルトキハ検査ヲ停止スルコトヲ得

第十一條 第一條第八條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 第二條第七條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 府縣郡市町村其ノ他公共團體ト於テ行フ「ペスト」菌取扱ニ關シテハ本則ノ規定ヲ準用ス

第十四條 本則施行ノ際現存スル検査所ハ明治三十五年六月三十日迄ニ本則ニ依リ認可ヲ受クヘシ 前項ノ期間内ハ其ノ事業ヲ繼續スルコトヲ得

第十五條 東京府ニアリテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行

### ●飼猫獎勵方

●警察部長通牒 明治四十二年一月二十八日 警収第一三六三號

各郡市長宛

「ペスト」豫防上鼠族驅除ノ極メテ緊要ナルハ今更絮説ヲ要セス 就テハ從來御施行相成居リ候各般ノ除鼠方法ハ將來益勵行セラ  
ル、ハ勿論ニ候得共尙猫畜ノ飼養ヲ獎勵シ以テ鼠族ヲ驅除スル  
ノ必要可有之存候而シテ有病地ニ於テハ猫畜ニヨリテ病毒ヲ介  
達スルノ危険ハ絶對ニ之レナシト斷シ難ク候ヘ共此ノ如キハ稀  
有ノ場合ニ屬シ之ヲ豫防上猫畜飼養ノ利益ニ比較致シ候ヘハ深  
ク顧慮スルニ足ラスト認メ候然レトモ其既ニ「ペスト」ノ發生ニ  
及ンテ急遽飼猫ヲ獎勵致候トモ其目的ヲ充分達シ難キ義ニ候ヘ  
ハ平時ヨリ可成猫種ヲ撰擇シテ遍ク之ヲ飼養セシメ諸他ノ豫防

方法ト相俟テ「ペスト」豫防ノ効果ヲ収メ候様記慮相成度旨其筋ヨリ通牒有之候ニ付獎勵方御取計相成度此段及通牒候也

●疑似症ニ對スル傳染病豫防法適用

●長野縣令第三十一號 明治三十三年五月十一日

明治三十年法律第三十六號傳染病豫防法ニ依リ「ペスト」豫防上必要ニ付該病ノ疑似症ニ對シ傳染病豫防法ノ全部ヲ適用ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●長野縣令第三號 大正元年八月廿七日

赤痢疑似症ニ對シ明治三十年法律第三十六號傳染病豫防法ノ全部ヲ適用ス

●長野縣令第四十四號 明治四十年十月十三日

虎列刺疑似症ニ對シ明治三十年法律第三十六號傳染病豫防法第三條第四條第五條第九條第十條第十二條第二十九條第三十條第

三十一條ヲ適用ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●長野縣令第三十七號 明治四十三年九月二十一日

ハラ窒扶斯不全窒扶斯其他ノ窒扶斯疑似症ハ腸窒扶斯ノ疑似症ト看做シ明治卅年法律第三十六號傳染病豫防法ノ全部ヲ適用ス

●虎列刺類似患者取扱方

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●警發第二八六號 明治卅五年八月一日

警察署長 警察分署長

虎列刺類似患者取扱方ニ付テハ曩日指示シ置キタル處ナルモ今後該患者若ハ死體發見ノ場合ハ電話電報ヲ以テ速報スルト同時患者ノ吐瀉物ニ付醫師ヲシテ檢鏡セシメ若シ適當ノ醫師ナキ場合ハ主治醫ヲシテ適當ノ器物ニ未消毒ノ部分ヲ採取セシメ置キ共ニ其狀況上申スヘシ

「メ」チ  
フスハ  
本令發布  
後傳染病  
豫防法ノ  
施行ヲ必  
要トスル  
傳染病ト  
指定セラ  
レタルニ  
依リ自然  
消滅

●虎列刺類似患者取扱上注意方

●警發第二七〇號

明治卅六年  
八月十八日

警察署長 警察分署長

防疫上ニ關スル義ニ付指示

類似虎列刺ハ全ク急性胃腸炎所謂霍亂ト同病異名ナルヲ以テ傳染病ノ措置ヲ爲スニ及ハサル旨客年會議ノ際指示シ猶同年七月警發第二八六號ヲ以テ虎列刺類似症ニ關スル取扱方指示シ置キタルニモ抱ハラス往々類似虎列刺ニ對シ傳染病ノ取扱ヲ爲ス向アリ又假リニ類似症ト見ルモ警發第二八六號ノ指示ヲ實行セサル向ナキニアラス一ハ徒ニ騷擾ヲ醸シテ寸益ナク一ハ防疫上ノ欠如ヲ來シ不都合不少候條爾後右指示ノ主旨ヲ誤ラサル様一層注意ヲ拂フヘシ

●旅行中ノ外國公使又ハ其家族等傳染病ニ罹リシ片取扱方

●衛生局長通牒 明治三十四年五月二十三日衛甲第六號ノ内

(全月三十日警收第五六三一號ヲ以テ各郡長へ通牒及各警察官

署長へ指示アリ)

旅行中ノ外國公使又ハ其家族雇人ニシテ傳染病ニ罹リ若クハ其旅館内ニ傳染病患者ノ發生シタル場合ニ於ケル處置方ニ付朽木縣ヨリ照會有之經伺之上別紙之通り回答致シ置キ候條御了知相成度爲念此段及通牒候也

朽木縣照會

警第七四三四號

外國公使又ハ其家族ニ對スル傳染病豫防法適用方ニ付疑義相生シ候條左ノ各項ニ對シ何分ノ御回報相煩シ度此段及照會候也

(左記)

- 一 旅行中ノ外國公使又ハ其家族雇人ニシテ傳染病ニ感染シタル場合ニ於テ豫防上必要ト認ムルトキハ傳染病院又ハ

隔離病舎ニ收容スルコトヲ得ルヤ否ヤ

二 或場所ニ投宿中傳染病ニ罹リ又ハ全宿ノ旅客ニシテ該病ニ感染シタル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ豫防法第八條ニ依リ外國公使又ハ其家族雇人ヲモ交通ヲ遮斷シ差支ナキヤ否ヤ

三 第一項ノ場合ニ於テ收容スルコトヲ得ス第二項ノ場合ニ於テ交通遮斷ヲ執行スルコト能ハサルトスルモ單ニ豫防的消毒ノ如キハ其意ニ反シテモ之ヲ施行シ差支ナキヤ否ヤ  
右ニ對スル回答

衛甲第六號

客年十一月十四日警第七四三四號ヲ以テ旅行中ノ外國公使又ハ其家族雇人ニシテ傳染病ニ罹リ若クハ其旅館内ニ傳染病患者ヲ發生シタル場合ニ於ケル處置方ニ付御照會ノ趣了承右ハ國際公法上外國公使ト雖モ衛生及公安警察ノ爲メ設ケタル法令ヲ遵守

スベキ筈ナモノニハ有之候得共其身体上及執務上ノ完全ナル自由ハ又最モ尊重ヲ要スル義ニ有之候間豫防方法ノ施行上協議調ヒ難キ場合ニハ一應本局へ内議ノ上措置相成候様致度經伺ノ上此段及御回答候也

### ●清潔法施行法

●長野縣令第十號

明治三十七年三月十五日

清潔方法左ノ通相定ム

#### 清潔法施行方法

一 清潔法施行ノ告知アリタル片ハ左ノ各項ヲ遵守施行スヘシ  
家 屋

一 全部ノ戸障子ヲ開放シ疊、敷物類ヲ搬出シ屋内各部ヲ洒掃スルコト

二 疊、敷物類ハ可成四時間以上日光ニ暴露スルコト

- 三 衣類臥具類ハ十分日光ニ暴露スルコト
- 四 床下ハ床板ノ全部又ハ幾部ヲ剝離シ塵芥等ヲ除去スルコト  
ト 但床板ヲ剝離セサルモ掃除シ得ヘキ場所ハ剝離スルヲ要セス
- 五 床下ノ地質濕潤ナル場所ハ排水法ヲ設ケ乾砂又ハ石灰粉末ヲ撒布スルコト
- 六 寢室ニ敷キタル藁、粗糠等ハ之ヲ搬出シ十分乾燥スルコト
- 邸宅
  - 一 塵芥雜草ヲ除去シ地盤ヲ乾燥ナラシムルコト
  - 二 下水溝渠ハ十分ニ浚渫シ破損又ハ疎通セサル個所ハ修理又ハ改良スルコト
  - 三 芥漚ノ塵芥ハ可成燒却又ハ無害ノ地ニ搬出スルコト
  - 四 肥漚等ニシテ飲用又ハ使用水ニ接近スルモノハ可成他ヘ移轉スルコト

- 五 肥漚等ノ構造不完全ニシテ糞尿ノ漏溢又ハ地中ニ滲透スルノ虞アルモノハ改修スルコト
- 六 肥料置場ノ周圍ニハ小溝ヲ設ケ汚水ノ流出ヲ防クコト
- 七 臺所流又ハ汚水漚ノ破損若ハ漏溢ノ虞アルモノハ改修スルコト

便所

- 一 廁圍ノ構造不完全ニシテ糞尿ノ漏溢又ハ地中ニ滲透スル虞アルモノハ改修スルコト
- 二 飲用水又ハ使用水ニ接近スル廁圍ハ可成他ヘ移轉スル事  
飲用水使用水
  - 一 飲用水又ハ使用水ニ供スル井戸ハ可成浚渫シ井戸側井戸流及其周邊ノ破壞セルモノハ之ヲ改修スルコト
  - 二 飲用水使用水ニ供スル溪流、掛水、泉水等ハ其ノ周邊水中ノ汚物ヲ除去シ疎通スルコト

- 二 除去シタタ塵芥又ハ汚物ハ肥料ニ供スル爲メ田畑又ハ肥料溜ニ投スルモノ、外無害ノ地ニ於テ棄却又ハ燒却スヘシ
- 三 汚物掃除法施行地及其ノ準用地域ニ在テハ本手續ノ外其ノ規定ニ依ルヘシ

●清潔法施行手續

●長野縣訓令第廿八號

明治三十七年三月十五日

郡役所 警察署 警察分署 市役所 町村役場

清潔法施行手續左ノ通相定ム

清潔法施行手續

- 第一條 清潔法施行ノ命令アリタルトキハ市町村長ハ施行期日及其區域ヲ定メ一般ニ之ヲ告知シ豫メ其準備ヲ爲サシムヘシ
- 第二條 前條ノ期日及區域ヲ定メタルトキハ町村長ハ之ヲ郡役所及警察官署ニ市長ハ警察官署ニ申報スヘシ

第三條 市町村長ノ定メタル期日ニ於テ清潔法ヲ施行スル能ハサル事情アルトキハ當該吏員ハ其緩急ヲ斟酌シ猶豫スルコトヲ得

第四條 市町村長ハ毎戸ニ臨ミ清潔法ノ施行ヲ看視シ又ハ吏員ヲシテ監督セシムヘシ

第五條 警察官署長ハ受持區巡查ヲシテ毎戸ニ臨ミ清潔法ノ施行ヲ監督セシムヘシ

第六條 郡長及警察官署長ハ部内ヲ巡視シ又ハ吏員ヲ派遣シ清潔法ノ施行ヲ監督セシムヘシ

第七條 當該吏員ハ傳染病患者アリタル家屋又ハ其附近ノ場所溝渠、芥溜、其他ノ場所ニシテ病毒潜伏ノ虞アリト認ムルトキハ消毒藥ヲ使用セシムルコトヲ得

●浸水家屋清潔方法

●長野縣訓令第七十二號

明治卅八年六月廿三日

郡役所 警察署 警察分署 市役所 町村役場

浸水家屋ノ汚潔方法ハ左ノ各號ニ依リ施行セシムヘシ

- 一 戸障子ヲ開放シ疊、敷物類ヲ搬出シ空氣ヲ流通セシメ屋内各部ヲ洒掃スルコト
- 二 疊、敷物類ハ可成四時間以上日光ニ暴露スルコト
- 三 衣服、臥具類ハ十分ニ日光ニ暴露スルコト
- 四 床下ハ床板ノ全部又ハ幾部ヲ剝離シ泥土、汚水、塵芥ヲ除去スルコト
- 五 溝渠ハ生石灰末ヲ灌キ攪拌シタル後浚渫スルコト
- 六 井戸浚ヲ爲シ飲料水ハ當分ノ内煮沸シテ用井ルコト
- 七 廁圍ノ糞尿ハ生石灰末ヲ灌キ攪拌シタル後汲出スコト
- 八 除去シタル泥土、汚水、塵芥等ハ無害ノ地ヘ搬出シ棄却若クハ焼却スルコト

●清潔方法施行督勵方

●長野縣訓令第三十八號

明治廿六年四月七日

郡役所 警察署 警察分署 市役所 町村役場  
 傳染病豫防上毎年春秋二回清潔方法ヲ施行セシムルニ年々逐ヒ漸次効果ヲ見ルヘキモノアリト雖トモ尙督勵ヲ加ヘサレハ形式ニ流ル、ノ傾向ナキニアラス故ニ今後清潔方法施行ノ際ハ特ニ便所下水溜、井邊、又ハ地層ヲ汚スヘキ虞アル場所ニ對シ之カ改善ヲ促シ以テ病毒ノ誘發ヲ制セシメ清潔方法施行ノ目的ヲ貫徹スル様十分督勵指導スヘシ

●溝渠用惡水路浚渫取締方

●警發第二八一號

五月二十七日

警察署長 警察分署長

卑濕汚穢ノ地ニハ幾多ノ細菌蟄伏セルニヨリ若シ一朝地表ニ出ツルノ機會ヲ得ハ忽チ慘害ヲ流スニ至ルヘシ然ルニ溝渠又ハ用惡水路浚渫ノ泥土又ハ汚物ヲ路上ニ推積シ徒ラニ石灰末ヲ撒布



第二章 檢

疫

シ其乾燥ヲ埃チ搬出スル向アリ此ノ如キハ所謂汚土ノ丘惡臭ノ府瘟疫ノ種タルハ勿論交通ノ妨害タルニ依リ今後ハ直ニ無害地ニ搬出セシメ以テ如上ノ弊ナカラシムル様取締方注意セラルヘシ

● 此種汚土ノ丘ノ存在ハ本邦各地ニ見出ルル所ナリ其ノ汚染力ハ甚大ナルヲ以テ其ノ搬出ニ際シテハ先づ乾燥シテ之ヲ埃チシテ搬出スルニ注意セラルヘシ又其ノ搬出ノ時ニハマスクヲ着用シテ之ノ塵埃ヲ吸入スルヲ防止スルニ注意セラルヘシ

第二章 検査疫

シ其乾燥ヲ埃チ搬出スル向アリ此ノ如キハ所謂汚土ノ丘惡臭ノ  
府瘟疫ノ種タルハ勿論交通ノ妨害タルニ依リ今後ハ直ニ無害地  
ニ搬出セシメ以テ如上ノ弊ナカラシムル様取締方注意セララルヘ  
シ

## 第二章 檢疫

### ●檢疫委員職務章程

●長野縣令第四十號

明治三十年  
八月廿四日

#### 檢疫委員職務章程

第一條 檢疫委員事務本部ハ本廳ニ置キ左ノ職員ヲ以テ之ニ充ツ

委員長 一名

副長 一名

委員 若干名

第二條 檢疫委員事務所ハ郡市ニ置キ左ノ職員ヲ以テ之ニ充ツ

委員長 一名

副長 一名

委員 若干名

第三條 檢疫委員長ハ知事ノ命ヲ承ケ部下ノ諸員ヲ指揮監督シ

部中一切ノ事務ヲ掌理ス

副長ハ檢疫委員長ノ事務ヲ輔ケ委員長事故アルトキハ其事務

ヲ代理ス

第四條 檢疫委員事務所長ハ部下ノ諸員ヲ指揮監督シ其都市内

ニ屬スル一切ノ事務ヲ掌理ス

副長ハ委員事務所長ノ事務ヲ輔ケ委員事務所長事故アルトキ

ハ其事務ヲ代理ス

第五條 檢疫委員ハ委員長若クハ事務所長ノ命ヲ承ク檢疫豫防

ニ關スル事務ニ従事ス

第六條 檢疫委員長又ハ檢疫委員事務所長ハ檢疫委員ニ事務ノ

分掌ヲ命スルコトヲ得

第七條 本廳ヨリ事務所ニ配置シタル檢疫委員ハ檢疫豫防ノ事

務ニ參與シ又ハ事務所長ノ指示ニ依リ實務ニ従事ス

第八條 檢疫委員ニシテ有給ノ官職ヲ帶ヒタル者ニ給スヘキ旅

費額ハ別ニ之ヲ定ム

### ● 檢疫委員設置規則

● 內務省令第十五號 明治三十五年六月五日

第一條 檢疫委員ハ廳府縣郡島廳ノ官吏醫師藥劑師等ニ就キ府

縣知事 東京府ハ警視總監以下ヲ做フ 之ヲ命ス

警視總監ハ東京府知事ニ協議シ府ノ官吏ニ檢疫委員ヲ命スル

コトヲ得

第二條 檢疫委員ハ府縣知事ノ命ヲ受ケ傳染病豫防事務ノ監督

廳府縣ニ於テ施行スル船舶汽車ノ檢疫其他傳染病豫防救治ニ

關スル事務ニ従事ス

第三條 檢疫委員ノ設置及廢止ハ之ヲ告示スヘシ

第四條 檢疫委員ノ組織及職務ハ第五條以下ニ準據スヘシ但廳

府縣ノ本廳ニ限り檢疫委員ヲ置キ又ハ郡市島ニ限り檢疫委員ヲ配置スルモ妨ナシ

第五條 廳府縣ノ本廳ニ檢疫委員長一人ヲ置ク但必要アルトキハ副長一人又ハ數人ヲ置ク  
檢疫委員長ハ警部長警視廳ハ警察醫長副長ハ委員中ニ就キ府縣知事之ヲ命ス

第六條 府縣知事ハ郡市島ニ檢疫委員事務所ヲ置キ其ノ郡市島内ニ屬スル第二條ノ事務ニ從事セシムヘルコトヲ得

第七條 檢疫委員事務所ニ所長一人及副長一人又ハ數人ヲ置ク  
檢疫委員事務所長ハ郡長島司又ハ警察署長ニ副長ハ委員中ニ就キ府縣知事之ヲ命ス

第八條 檢疫委員ノ職務章程ハ府縣知事之ヲ定ム

●臨時檢疫官設置

●勅令第九十七號

明治卅三年三月三十日

第一條 傳染病流行シ又ハ流行ノ兆アルトキハ内務大臣ノ指定

シタル廳府縣ニ檢疫官若干人ヲ置キ之ヲ警察部(警視廳ニ在リテハ第三部)ニ屬セシム

第二條 檢疫官ハ上官ノ命ヲ承ケ檢疫豫防ニ關スル事務ヲ分掌ス

第三條 檢疫官ハ醫師藥劑師等ニ就キ警視總監地方長官之ヲ命ス

第四條 檢疫官ニシテ有給ノ官職ヲ帶ヒサル者ニハ一箇月百二十圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第五條 檢疫官ニハ内國旅費規則ニ依リ四等旅費ヲ給ス

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十八年勅令第四十四號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ●汽車檢疫規則

●内務省令第十九號

明治三十年七月十九日

傳染病豫防法第十八條ニ依リ汽車檢疫規則左之通定ム

第一條 府縣知事東京府ハ警視總監汽車檢疫ヲ施行セントスルトキハ檢疫

スヘキ傳染病及其ノ目的地方ヲ指定シ檢疫施行ノ停車場及開

始ノ期日ヲ定メテ内務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ告示シ併セテ關

係府縣東京府ハ警視廳ニ通知スヘシ其ノ廢止ノトキ亦之レニ準ス但官

設鐵道停車場ニ於テ檢疫ヲ施行スルトキハ遞信省ニモ申報ス

ヘシ

關係府縣廳東京府ハ警視廳ニ於テ本縣ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ旨

ヲ告示スヘシ

第二條 汽車中ニ傳染病患者又ハ死者アリタル片ハ患者ハ之ヲ

市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舎其ノ他適當ノ場所ニ收容治

療シ死者ハ引受人ニ引渡シ若シ引受人ナキトキハ明治十五年

月九日布告第四十九號行旅死亡人取扱規則ニ準シ市町村長、區長

沖繩縣又ハ戶長 戶長ニ準スヘキヲシテ其ノ處置ヲ爲サシムヘシ但

該規則第二條末段ノ場合ニ於テハ發見地ノ府縣稅又ハ地方稅

ヲ以テ其ノ費用ヲ支辨スヘシ

第三條 汽車檢疫ノ際發見シタル傳染病患者ヲ市町村立ノ傳染

病院又ハ隔離病舎ニ收容中特ニ要シタル費用ニシテ該患者ヨ

リ徵收スヘキモノハ前條末段ニ依リ取扱ヒ其ノ本籍詳カナラ

サル場合又ハ身元赤貧ニシテ償却ノ途ナキ場合ニ限り發見地

府縣知事ニ請求スヘシ但本條ノ費用ニシテ患者ヨリ徵收スヘ

カラサルモノハ直ニ發見地府縣知事ニ請求スルコトヲ得

發見地府縣知事ハ前項ノ請求アリタルトキハ府縣稅又ハ地方

稅ヨリ之ヲ支辨スヘシ

第四條 汽車中ニ傳染病患者アリタルトキハ患者死者ト同車室ニアルカ否ラザルモ病毒汚染ノ虞アル乗客及手荷物ハ一時之ヲ留メテ消毒方法ヲ施行スヘシ

第五條 傳染病患者又ハ死者アリタル車室ハ之ヲ取離シテ消毒方法ヲ施行スヘシ此ノ場合ニ於テハ鐵道掛員ヲシテ補助ヲ爲サシメ及器具藥品等ヲ供給セシムルコトヲ得

第六條 傳染病患者又ハ死者ナキ車室ト雖モ檢疫掛員ニ於テ必要ト認ムルトキハ清潔方法消毒方法ヲ施行セシムルコトヲ得

第七條 檢疫掛員ニ於テ職務執行上必要アルトキハ無償ニテ其車場ニ至リ其ノ處置ヲ爲スヘシ

ノ列車ニ乗込ミ又ハ必要ナル通信ヲ驛長若クハ掛員ニ求ムルコトヲ得無償乗車ノ場合ニ於テハ官職氏名ヲ記シタル證票ヲ驛長若クハ掛員ニ示スヘシ

附 則

第八條 汽車檢疫施行中府縣知事(東京府ハ警視總監)ノ指定シタル以外ノ地方ヨリ來リタル汽車ニ傳染病患者又ハ死者アリタルトキハ此ノ規則ヲ準用ス

第九條 明治二十三年內務省訓令第四五二號汽車檢疫心得ハ廢止ス

● 瀛車檢疫心得

● 內務省訓令第四九七號 明治廿七年七月四日

第一 地方長官ハ鐵道線路中ノ重モナル停車場(例之ハ東海道鐵道線路ニテハ橫濱、國府津、沼津、靜岡、濱松、豊橋、名古屋等

ノ停車場ヲ云フニ檢疫掛員(掛員中ニハ醫師ヲ入ルベシ)ヲ派出シ消毒藥消毒器具患者運搬器其他救急ノ方藥ヲ備ヘ置ク事

第二 凡ソ停車場ニハ消毒藥ヲ備ヘ置カシムルコト

第三 汽車中ニ(虎列刺)病又ハ(虎列刺)ニ疑ハシキ患者若シクハ死者アリタルトキハ檢疫掛員ハ左ノ處置ヲ爲スコト但檢疫掛員

派出ナキ停車場ニシテ患者死者ノ取扱ヒ消毒法施行ヲ爲シ能ハサル場合ニ在テハ鐵道掛員ニ於テ即時警察官吏又ハ市町村

吏員ニ報知シテ適應ノ處分ヲ乞フコト

一 患者ハ避病院又ハ檢疫委員ノ適當ト認ムル場所ニ之ヲ送付スル等相當ノ取扱ヲ爲スコト

二 死者ハ消毒ノ上相當處分ヲ爲スコト

三 患者死者ト同車室ニ在リタル乗客ハ悉ク下車セシメ其車室ハ(若シ吐瀉物ノ現ニ在スルトキハ其上ニ生石灰、砂)之ヲ閉チ見易キ徽票ヲ貼付シ其車室ヲ交換シ得ベキ停車場ニ至リ之ヲ

取離シテ消毒ヲ行ハシムルコト  
四 前項下車セシメタル乗客中病毒附着ノ虞アル者及ヒ手荷物ハ一時之ヲ留メテ消毒ヲ行ヒ其他ハ別車室ニ移シ直ニ發セシムルコト

第四 患者死者アリタル車室ノ消毒ハ先ツ吐瀉物ヲ取除キテ之ヲ燒却シ(機關車ノ火竈内ニ投スルヲ可トス)次ニ石灰乳(十倍ノモノヲ用フ)又ハ石炭酸水(二十倍ノモノヲ用フ)ヲ以テ

叮嚀ニ淨拭シ更ニ淨水ヲ以テ再ヒ淨拭スルコト但其車室ニ附屬スル便所モ同様消毒スルコト

● 瀛車檢疫ニ關シ乗客手荷物

無償ニ關スル件

● 衛生局長通牒 明治三十年 七月廿六日

瀛車檢疫ノ件ニ付別紙寫ノ通り鐵道局一般並各私設鐵道會社へ



通達候旨遞信省ヨリ通知有之候條此段及通牒候也

一七〇

(別紙)

達第七號

鐵道局

汽車中ニ傳染病患者又ハ死者アリタルガ爲メ一時乗客ヲ下車セシメ又ハ該車室ノ出入ヲ止メ他ノ停車場マテ乗越サシメタルトキハ其乗客及手荷物ノ檢疫掛員ノ證明ニ依リ無償ニテ乗車切符面ノ停車場ヘ送達スヘシ

明治三十年七月二十一日

遞信大臣

鐵甲第一六五七號

汽車中ニ傳染病患者又ハ死者アリタルガ爲メ一時乗客ヲ下車セシメ又ハ該車室ノ出入ヲ止メ他ノ停車場マテ乗越サシメタルトキハ其乗客及手荷物ハ檢疫掛員ノ證明ニ依リ無償ニテ乗客切符面ノ停車場ニ送達相度此段及通牒候也

明治三十年七月二十二日

遞信省鐵道局長心得

各鐵道株式會社宛

●列車中ノ吐瀉物措置方

●衛生局長通牒

衛甲第六三號  
明治卅五年十月三日

從來汽車檢疫施行上患者死者アリタル車室ノ消毒ニ付テハ吐瀉物ハ場合ニ依リ機關車ノ火竈内ニ投シテ之ヲ燒却致居候處右ハ列車運轉ノ上ニ影響ヲ及ホスヤモ計難候條自今吐瀉物ハ別ニ相當裝置ノ下ニ之ヲ燒却候様措置セラレ度依命此段及通牒候也

●汽車檢疫掛員徽章

●長野縣告示第三百二十三號

明治三十二年  
十一月廿四日

汽車檢疫係員ニハ左腕ニ檢ト白書セル赤布ヲ纏ヒ記章トナサシム

赤布ハ幅一寸質ハ絹トス



●檢疫委員視察心得

●長野縣訓令第七十二號 明治廿六年 七月十七日 郡役所 警察署 警察分署

明治三十二年 訓令第百一十一號 檢疫委員視察心得 左ノ通り 改定ス

檢疫委員視察心得

- 第一條 傳染病豫防法第十八條ニ依リ檢疫委員ヲ命セラレタル者ハ市町村吏員又ハ豫防委員ヲ指示シ其事務ニ従事スヘシ
- 第二條 左ノ事項ハ特ニ注意視察スヘシ
  - 一 消毒藥品溶解ノ適否

二 患家及病院病舎ニ於ケル消毒方法施行ノ適否

三 交通遮斷及隔離ノ當否

四 消毒藥品及消耗品使用ノ適否

五 患者取扱ノ適否

六 吏員豫防委員勤務ノ當否

第三條 病院病舎ニ於テ視察上注意指示スヘキ事項ヲ認メタル

トキハ様式ノ注意表ヲ作り之ヲ附與シ實行ヲ期セシムヘシ

第四條 病院病舎ニ臨ミタルトキハ先ツ注意表ヲ閱シ前ニ視察

ノ檢疫委員ニ於テ指示セシ事項ノ實行如何ヲ檢スヘシ

指示事項ニシテ檢疫委員相互意見ヲ異ニスルトキハ檢疫委員

長ニ報告スヘシ

第五條 視察ヲ終ヘタルトキハ注意ヲ與ヘタル事項ヲ特記シ併

テ概況ヲ復命スヘシ

(様式)

注意表

豫防消毒上ニ關スルコト  
 設備上ニ關スルコト  
 患者治療上ニ關スルコト  
 患者飲食品ニ關スルコト  
 看護上ニ關スルコト  
 炊事上ニ關スルコト  
 消毒藥消耗品使用上ニ關スルコト  
 差入品ニ關スルコト  
 吏員又ハ豫防委員勤務上ニ關スルコト  
 清潔方法ニ關スルコト  
 交通遮斷ニ關スルコト  
 其他ノ事項

年 月 日

検査委員 官名氏 名

備考 本表ニ掲クル事項中注意スヘキ点ナキ項目ハ記載スルヲ要セス

●検査委員視察心得準用ノ件

●警發第一七六號 明治四十年五月十八日 警察署長 警察分署長

防疫ニ關スル儀ニ付指示

検査委員ヲ命セラレサル以前ニ於テ傳染病豫防ニ關シ當該吏員ヲ指示シテ其事務ニ従事スルトキハ明治三十六年七月訓令第七十二號検査委員視察心得ヲ準用セラルヘシ

第三章 衛生組合

十三 衛生委員の職務 衛生委員の職務は、衛生委員会の決議に基づき、衛生委員会の所掌事務を執行することである。衛生委員会は、衛生委員の選任及び解任、衛生委員の職務の分担、衛生委員の報酬等について、衛生委員会の決議に基づき、衛生委員会の所掌事務を執行することである。

● 衛生委員の職務 衛生委員の職務は、衛生委員会の決議に基づき、衛生委員会の所掌事務を執行することである。衛生委員会は、衛生委員の選任及び解任、衛生委員の職務の分担、衛生委員の報酬等について、衛生委員会の決議に基づき、衛生委員会の所掌事務を執行することである。

● 衛生委員の選任及び解任 衛生委員の選任及び解任は、衛生委員会の決議に基づき、衛生委員会の所掌事務を執行することである。衛生委員会は、衛生委員の選任及び解任、衛生委員の職務の分担、衛生委員の報酬等について、衛生委員会の決議に基づき、衛生委員会の所掌事務を執行することである。

● 衛生委員の報酬 衛生委員の報酬は、衛生委員会の決議に基づき、衛生委員会の所掌事務を執行することである。衛生委員会は、衛生委員の選任及び解任、衛生委員の職務の分担、衛生委員の報酬等について、衛生委員会の決議に基づき、衛生委員会の所掌事務を執行することである。